

教育委員会事務点検・評価報告書

令和4年度事業



遊佐の小正月行事（鳥崎のアマハゲ）

国指定重要無形民俗文化財・ユネスコ無形文化遺産

令和5年9月
遊佐町教育委員会

イラスト：木山由紀子

目 次

I	教育委員会事務の点検・評価の概要	
1	点検・評価の目的	5
2	点検・評価の実施方法等	5
3	点検・評価結果の公表	6
4	取り組みの経過	6
5	点検・評価対象項目	6
II	点検・評価の結果	
1	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成	8
1	乳幼児期の教育と子育て支援の推進	9
2	コミュニティ・スクールの推進	9
3	よりよい生き方を育む教育の推進	10
4	確かな学力を育む教育の推進	10
5	変化に対応する力を育む教育の推進	11
6	教育環境の整備の推進	12
7	青少年の健全育成	12
2	心豊かに「いのち」輝く町民の育成	13
8	生涯学習推進体制の整備	13
9	生涯学習の基礎的環境づくり	13
10	多様な生涯学習機会の提供	14
11	次世代につなぐ地域活動の推進	15
12	うるおいに満ちた芸術文化活動の推進	16
13	文化財等の調査・保存と継承・活用	16
14	歴史・文化遺産の保存と継承・活用	17
15	はつらつとした生涯スポーツ活動の推進	17
16	確かな教育行政の推進	19
17	新型コロナウイルスへの臨時措置	19
III	学識経験者の意見	20
IV	教育委員会の活動状況	
1	教育委員会の委員	26
2	教育委員会の主な職務権限	26
3	総合教育会議の開催状況	27
4	教育委員会会議の開催状況及び審議内容	27
5	教育委員会会議以外の活動内容	28

V 事業評価点検評価シート

1	乳幼児期の教育と子育て支援の推進	
	2 職員研修の推進／4 子育て相談や研修の推進（シート①）	29
	3 給食の充実と食育の推進（シート②）	31
2	コミュニティ・スクールの推進	
	1 「学校運営協議会」を活かす学校運営の推進（シート③）	32
	2 学校支援地域活動の推進（学習支援塾）（シート④）	33
3	よりよい生き方を育む教育の推進	
	5 ふるさと教育の推進（シート⑤）	34
4	確かな学力を育む教育の推進	
	1 児童生徒理解に基づく学力育成策の確立／2 探究的な学習の推進 （シート⑥）	36
	6 特別支援教育の推進（シート⑦）	37
	8 教職員のゆとり創造と研修の推進（シート⑧）	39
5	変化に対応する力を育む教育の推進	
	2 情報教育の推進（シート⑨）	40
	3 高校や大学等との連携の推進（シート⑩）	41
6	教育環境の整備の推進	
	4 小中学校の適正整備の推進（シート⑪）	43
7	青少年の健全育成	
	1 社会参加を促す活動の推進（シート⑫）	44
	3 地域全体で育む活動の推進（シート⑬）	46
9	生涯学習の基礎的環境づくり	
	2 読書活動の推進（シート⑭）	47
	3 家庭・学校・地域の連携（1）（シート⑮）	49
	3 家庭・学校・地域の連携（2）（シート⑯）	51
10	多様な生涯学習機会の提供	
	2 現代的な課題への学習機会の提供（シート⑰）	53
11	次世代につなぐ地域活動の推進	
	1 地域教育力の向上（学び合い・教え合い）（シート⑱）	55
	2 地域まちづくり活動の活性化（1）（シート⑲）	57
	2 地域まちづくり活動の活性化（2）（シート⑳）	58
12	うるおいに満ちた芸術文化活動の推進	
	2 芸術文化作品鑑賞機会の提供（シート㉑）	60

13	文化財等の調査・保存と継承・活用	
1	文化財の調査・保存の推進（シート㉒）	62
2	民俗芸能・民俗行事の保存と継承・活用（シート㉓）	64
14	歴史・文化遺産の保存と継承・活用	
1	歴史資料や文化遺産の調査・保存と継承（シート㉔）	65
2	歴史・文化遺産の活用（シート㉕）	66
15	はつらつとした生涯スポーツ活動の推進	
2	関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援（1） （シート㉖）	67
2	関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援（2） （シート㉗）	69
4	施設・設備の整備と活用（シート㉘）	71
5	生涯スポーツの推進（シート㉙）	72
17	新型コロナウイルスへの臨時措置	
◎	新型コロナウイルス感染症予防対策等に係る取組状況（シート㉚）	73
◎	新型コロナウイルス感染拡大の影響（シート㉛）	74

【参考資料】

- 1 「躍動」する遊佐っ子10か条
- 2 令和4年度町立図書館利用状況
- 3 令和4年度生涯学習まちづくり出前講座実績
- 4 令和4年度体育施設等の利用実績

第2次遊佐町教育振興基本計画の体系図

I 教育委員会事務の点検・評価の概要

1 点検・評価の目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進を図るとともに、町民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が執行した事業について点検・評価を行い、その報告書を町議会に提出し、また町民に公表するものです。

併せて、学識経験者の意見も踏まえ、点検・評価結果を次年度以降の施策の推進や改善に反映させていきます。

※参考 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及びその執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の実施方法等

(1) 点検・評価の対象項目の選定

今年度も点検・評価の対象項目は「第2次遊佐町教育振興基本計画」の「施策」の中から、今後、特に継続的、重点的に実施していく必要のある取り組みを選定しました。

(2) 点検・評価の実施方法

選定した点検・評価項目（施策）に関する取り組みの「事業概要」「令和4年度の取り組みの結果（成果と課題）」について、事務局から委員が説明を受け、点検・評価を行い、「課題」を明確化し「今後の方向性」について示しました。

(3) 学識経験を有する者の知見の活用

点検・評価の結果について客観性を確保するために、次の二氏から意見をいただきました。

○松田 憲 氏

東北公益文科大学 教授

○寺嶋 一郎 氏

前酒田市立松原小学校校長

3 点検・評価結果の公表

(1) 議会報告

- ① 報告時期 令和5年9月
- ② 報告方法 報告書を議長に提出

(2) 町民への公表

- ① 公表時期 令和5年9月
- ② 公表方法 遊佐町ホームページに報告書を掲載

4 取り組みの経過

時 期	取り組み内容
3月7日～ 3月31日	○事務局各係による内部評価の実施
6月19日	○教育委員による内部評価（課題の明確化と今後の方向性）
7月 6日	○学識経験者2氏へ点検・評価への意見の依頼 （事前説明会・ヒアリング）
7月20日	○学識経験者2氏から点検・評価への意見書の提出
7月25日	○教育委員会会議で点検・評価結果の議決

5 点検・評価対象項目（事業）

基 本 施 策		施 策	
1	乳幼児期の教育と子育て支援の推進	① 職員研修の推進／子育て相談や研修の推進 ② 給食の充実と食育の推進	学校指導係 総務学事係
2	コミュニティ・スクールの推進	③ 「学校運営協議会」を活かす学校運営の推進 ④ 学校支援地域活動の推進（学習支援塾）	学校指導係
3	よりよい生き方を育む教育の推進	⑤ ふるさと教育の推進	学校指導係
4	確かな学力を育む教育の推進	⑥ 児童生徒理解に基づく学力育成策の確立／探究的な学習の推進 ⑦ 特別支援教育の推進 ⑧ 教職員のゆとり創造と研修の推進	学校指導係
5	変化に対応する力を育む教育の推進	⑨ 情報教育の推進 ⑩ 高校や大学等との連携の推進	総務学事係
6	教育環境の整備の推進	⑪ 小中学校の適正整備の推進	総務学事係
7	青少年の健全育成	⑫ 社会参加を促す活動の推進 ⑬ 地域全体で育む活動の推進	社会教育係

8	生涯学習推進体制の整備	施策3項目のうち該当施策は無し	
9	生涯学習の基礎的環境づくり	⑭ 読書活動の推進 ⑮ 家庭・学校・地域の連携(1) ⑯ 家庭・学校・地域の連携(2)	社会教育係
10	多様な生涯学習機会の提供	⑰ 現代的な課題への学習機会の提供	社会教育係
11	次世代につなぐ地域活動の推進	⑱ 地域教育力の向上(学び合い・教え合い) ⑲ 地域まちづくり活動の活性化(1) ⑳ 地域まちづくり活動の活性化(2)	社会教育係
12	うるおいに満ちた芸術文化活動の推進	㉑ 芸術文化作品鑑賞機会の提供	社会教育係
13	文化財等の調査・保存と継承・活用	㉒ 文化財の調査・保存の推進 ㉓ 民俗芸能・民俗行事の保存と継承・活用	文化係
14	歴史・文化遺産の保存と継承・活用	㉔ 歴史資料や文化遺産の調査・保存と継承 ㉕ 歴史・文化遺産の活用	文化係
15	はつらつとした生涯スポーツ活動の推進	㉖ 関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援(1) ㉗ 関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援(2) ㉘ 施設・設備の整備と活用 ㉙ 生涯スポーツの推進	社会教育係
16	確かな教育行政の推進	施策2項目のうち該当施策は無し	
17	新型コロナウイルスへの臨時措置	㉚ 新型コロナウイルス感染症対策等に係る取組状況 ㉛ 新型コロナウイルス感染拡大の影響	学校指導係 文化係

注) 第2次遊佐町教育振興基本計画体系においては、**基本的方向** → **基本施策** → **施策**の流れとなっており、『Ⅰ 未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成』のもとに、基本施策1～7が属している。同様に、『Ⅱ 心豊かに「いのち」輝く町民の育成』のもとに基本施策7～15が、加えて別に基本施策16がそれぞれ属している。

また、施策の丸囲みの番号は、目次Vの事務事業点検評価シートの番号と一致しているが、この報告書の末尾の体系図の施策にある番号とは一致していない。

Ⅱ 点検・評価の結果

平成26年6月、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正となり、平成27年4月1日から施行されています。教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、地方公共団体の長と教育委員会との連携の強化等教育委員会制度の抜本的な改革を行うものです。

本町教育委員会においても、この法改正の趣旨を踏まえ、町長と教育委員会の連携強化を図り、町長が設置した総合教育会議において、これまで以上に様々な分野について協議し、町をあげて未来を担う子どもたちを育てていきたいと考えています。

平成29年10月に策定した第2次遊佐町教育振興基本計画の基本的方向、基本施策ごとの点検・評価を行い、施策ごとの評価は、目次V（P29～P74）の事務事業点検評価シートにまとめています。

① 未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成

平成29年3月に新しい学習指導要領が公示され、子どもたちが未来を切り拓くための資質・能力の育成が求められています。これまで大切にされてきた「子どもたちに『生きる力』を育む」という目標は変わっていません。本町でも、これまでの実践や成果の蓄積を活かしながら、新しい時代を生きる上で必要な資質・能力を育み、地域とともにある学校づくりを推進しています。

学力向上に向けた取り組みでは、遊佐中学校の「遊佐町教育委員会委嘱公開研究発表会」や各小中学校において、児童生徒の主体的な学びを実現するための実践が積み上げられ、着実な成果を上げています。今後も、学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを大事にしながら、思考力・判断力・表現力等の育成に向けた授業改善の指導や支援をしていく必要があります。

特別な支援を必要とする児童生徒の認知数は増加傾向にあり、多様な指導と支援が求められています。各小中学校では、個別の教育支援計画・指導計画に基づく日常的な指導や支援を進めています。

いじめに関しては、「いじめはどの児童生徒にも、どの学校においても起こりうる」という基本認識のもと、未然防止と早期発見、速やかで組織的な対応が求められています。平成29年3月に国、11月に県のいじめ基本方針が改定され、本町でも、児童生徒の感じる被害性に着目し、積極的ないじめの認知と早期対応に力を入れています。

本町では、今年度も青少年の犯罪は無く、生徒指導に関する大きな問題行動はありませんでした。不登校の児童生徒については、全国的に増加傾向が見られます。本町も同様の傾向が見られますが、今後も十分な対応を継続していく必要があります。

防災教育については、地域と一緒にやって行う避難訓練等の工夫が見られます。通学路の安全、不審者対応等を充実させ、児童生徒自身の「危険回避能力」の育成を図っております。

学校教育と社会教育の連携により、地域ぐるみで青少年を育成していく機運が醸成され

つつあります。中高生を対象にした、少年町長・少年議会（20期目）や青少年ボランティア活動は、地域との連携の輪を広げながら遊佐町のPRを主とした政策提言の実現を果たすなど、着実に若者の社会参加意識が醸成され、成果を上げています。

コミュニティ・スクールの推進では、全小中学校に学校運営協議会が設置されており、充実した熟議が行われました。今後は5つの小学校が統合し、1つの小学校となりますが、地域とともにある学校づくりを推進し、認定こども園・保育園、小学校、中学校、地元の高等学校、さらに地域との連携を一層密にした取り組みの充実に向けて支援していきます。

1 乳幼児期の教育と子育て支援の推進

ここでは、施策4項目のうち2項目を取り上げました。

「2 職員研修の推進／4 子育て相談や研修の推進」（シート①）では、幼保小の教職員研修と保護者向け研修のペアレント・トレーニングについて評価しています。

教職員研修では、発達や学びの連続性をふまえた幼保小連携の充実に向け、10の姿を通して子どもの育ちを共有する視点について深く学びました。保護者向けのペアレント・トレーニングでは、子どものことをより深く理解し、適切な接し方について学ぶ機会となり、参加者からは好評を得ることができました。

「3 給食の充実と食育の推進」（シート②）では、学校と野菜生産者の密な連携により学校給食における県産農産物使用割合が県内上位であり、県内外に誇れる「安全でおいしい給食」であると言えます。今後も野菜生産者が安心して継続的に野菜を納入でき、新鮮で安全な季節の野菜を給食で提供できるよう諸課題を整理していきます。

また、各学年の発達段階に合わせた栄養教諭の食育指導では、食事の重要性を考えるきっかけを作ることができました。食べたことのない料理や食材に苦手意識を持つ児童生徒がいることから、今後の対応や取り組みについて栄養教諭と考えていく必要があります。

2 コミュニティ・スクールの推進

ここでは、施策2項目のうち2項目を取り上げました。

「1 「学校運営協議会」を活かす学校運営の推進」（シート③）では、コミュニティ・スクールの推進と地域学校協働活動推進員の委嘱について評価しています。

各学校ともこれまで積み上げてきた「地域とともにある学校づくり」の良さを引きついで学校運営が行われ、活発な熟議が行われました。

また、統括的な推進員や全小中学校ごとに地域学校協働活動推進委員を委嘱し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進に向けて取り組んでいます。

「2 学校支援地域活動の推進（学習支援塾）」（シート④）では、中学校3年生を対象に開催した学習支援塾について評価しています。

今年度は3年生の約6割から参加がありましたが、多くの講師の方々からご協力いただき、生徒に個別に対応することができました。参加者からの評価も高く、受験期の学習に向かう雰囲気づくりに貢献することができました。

令和3年度から統括的な推進員が企画運営を行っており、次年度も充実した学習支援塾の開催を目指していきます。

3 よりよい生き方を育む教育の推進

ここでは、施策6項目のうち1項目を取り上げました。

「5 ふるさと教育の推進」（シート⑤）では、子どもたちに対する宿泊体験を含む自然体験学習の機会の確保について評価しています。

今年度は、新型コロナウイルスの影響により小学校の宿泊体験学習は規模を縮小しての開催、中学校は宿泊なしのジオパーク学習となりました。しかし、そのような中でも藤崎小学校が「やまがたカーボンニュートラル大使」に委嘱されたり、遊佐中学校が「鳥海山・飛鳥ジオパーク発表会」で学習の成果を発表したりと、活躍が見られました。また、新小学校開校に向けて取り組んできた「学習素材人材リスト」の作成では、次年度以降の地域学校協働活動の充実を見据え活動を進めることができました。今後もふるさとに学ぶ機会を確保するために、遊佐町自然体験学習への町補助金の支援を継続していきます。

4 確かな学力を育む教育の推進

ここでは、施策8項目のうち3項目を取り上げています。

「1 児童生徒理解に基づく学力育成策の確立／2 探究的な学習の推進」（シート⑥）では、小中学校の授業研究会や公開研究発表会において、児童生徒の主体的な学びを実現するための授業改善がなされております。教科の学習が好きになる（学ぶ楽しさを実感できる）授業づくりについては、各校の特色を生かした実践がなされています。

また、小中一貫教育に関わる研修会（学力向上調査研究委員会）では、次年度以降を見据え、学びの多い研修会となりました。

「6 特別支援教育の推進」（シート⑦）では、特別支援教育アドバイザーによる保護者や学校への助言、スクールソーシャルワーカーによる家庭訪問等の直接的な働きかけ、スクールカウンセラーによる生徒への丁寧なカウンセリングにより、発達障がいとの理解と

その支援の進め方、家庭支援や校内体制の充実に成果を上げています。

特別支援教育支援員の配置では、各校において組織的な対応や一人一人の教育的ニーズに応じた支援が幅広く行われています。

「8 教職員のゆとり創造と研修の推進」(シート⑧)では、部活動指導員の配置により、該当する部活動を担当する教員の負担が軽減されております。

また、4年目となった学校事務の連携・共同実施では、学校事務職員相互の連携・協力により、的確で迅速な事務執行や研修を行い、学校事務職員の専門性を高め、学校事務の機能の強化につながっています。

5 変化に対応する力を育む教育の推進

ここでは、施策4項目のうち2項目を取り上げました。

「2 情報教育の推進」(シート⑨)では、令和2年度にGIGAスクール関連事業により小中学校で1人1台パソコンが整備され、学習用ソフトウェアを導入したことで、学校現場でのICT環境が充実したことに伴い、重要性が環境整備から運用方法などの確立やセキュリティ対策に移行しています。

教育版情報セキュリティポリシーを確認しながら、教職員への研修等を通して、情報セキュリティ環境の整備・充実に努めます。

「3 高校や大学等との連携の推進」(シート⑩)では、「遊佐高校就学支援事業」を取り上げました。

遊佐高校の存続は、遊佐町の振興にとって極めて大きな課題であると考え、平成26年度から「遊佐高校支援の会」を事業主体として、就学支援事業に取り組んできました。

平成30年度から県外出身者の入学が可能となったことで、令和元年度より県外からの入学者の確保に向けて本格的に取り組みました。「遊佐町自然体験型留学生募集要項」に基づき、県外からの志願者を募集してきました。

令和2年2月に、山形県教育委員会において、「県立高校再編整備基本計画」のルールが緩和されました。これまでは、入学者数が2年連続して入学定員の2分の1に満たない場合は、原則としてその2年後に募集停止になるということでしたが、高校の魅力化に向けた協議会の設置や2年続けて定員の半数を下回った場合でも地元自治体と協議するという方向性が示されました。なお、令和4年度の入学者数は24人、令和5年度の入学者数は24人です。

令和4年度からは、遊佐高校の魅力化策の一環である県外募集に関わる事業が、遊佐高等学校魅力化に係る地域連携協議会へと移管され、遊佐高校支援の会と連携して遊佐高校を支援していくことになりました。

6 教育環境の整備の推進

ここでは、施策4項目のうち1項目を取り上げました。

「4 小中学校の適正整備の推進」(シート⑪)では、「遊佐町立小学校適正整備に関する基本方針」に則り設置された「遊佐町立小学校新校開校準備委員会」(以下、開校準備委員会)について評価を行いました。

開校準備委員会については、令和元年7月の理事会の開催により具体的な協議が始められましたが、令和4年度についても、コロナ禍の影響を受けつつも、理事会や3つの部会である総務部会、PTA部会、学校部会は開催し、それぞれ協議を進め、これまで予定していた案件は、無事完了することができました。

人数が多く集まる総会は開催できませんでしたが、書面によりこれまでの経過も含め報告させていただきました。

7 青少年の健全育成

ここでは、施策4項目のうち2項目を取り上げました。

「1 社会参加を促す活動の推進」(シート⑫)では、「少年町長・少年議会公選事業」について評価を行いました。

今年度の第20期少年議会は、少年議員へ18名の立候補がありました。これまでの取り組みや、2020年から始まった小学校への事業説明会の成果と思われます。少年町長・少年議員等が有権者の声を参考に、ゆぎマルシェの開催、特産品開発を政策として行いました。ゆぎマルシェでは、遊佐町で製造・販売しているものの中にも中高生が魅力を感じる商品があることを、広く周知することを目的としたものです。遊佐町の魅力を広めるだけでなく、用意した商品が完売するなど、少年議会に立候補した中高生の成功体験としても一定の成果を感じられました。特産品開発では、町内施設との連携で新たな特産品の商品化に向けて提案しました。主に商品名・デザインを提案し、一部採用されるということで遊佐町の新たな魅力を生み出す手助けが出来ました。また、少年議会は全国放送で紹介されるなどし、全国的に注目されました。今後も地域リーダー育成を視野に、ボランティア活動等と連携し、一体的な社会参加と郷土愛の醸成を築いていく重要な事業となっています。

「3 地域全体で育む活動の推進」(シート⑬)の、青少年育成協議会と遊佐町PTA連絡協議会との共催で、「ふるさとを愛し、未来を拓く『いのち』輝く子どもの育成」をテーマとした「子育てフォーラム」は、昨年度に引き続き新型コロナウイルスにより開催を翌年度に見送ることとなりました。

② 心豊かに「いのち」輝く町民の育成

平成29年度に策定した「遊佐町生涯学習推進計画」に基づく施策の展開の5年目になります。少子化を伴う人口減少社会における持続可能なまちづくり(地方創生)に向け、時代に即応した多様な学習ニーズや地域の抱える課題を捉えながら、主体的な社会参加を促す研修会や生涯学習出前講座等の学習機会の提供に努めていくことが求められています。

文化財等の関係では、国史跡「小山崎遺跡」の保存と次世代への継承を目的として令和3年度に策定した「史跡小山崎遺跡保存活用計画」を受け、この計画に示した史跡整備の実現に向けて、有識者からなる「史跡小山崎遺跡整備基本計画策定委員会」を設置し、協議を始めました。

8 生涯学習推進体制の整備

ここでは、施策3項目のうち該当施策は無し。

9 生涯学習の基礎的環境づくり

ここでは、施策3項目のうち2項目を取り上げました。

「2 読書活動の推進」(シート⑭)では、指定管理者による「図書館運営事業」について評価を行いました。

近年の図書館の利用状況や利用者アンケートにより開館時間・休館日の見直しを行い、利用しやすい環境整備を行いました。また、これまでは新型コロナウイルス感染症予防対策として、図書館滞在時間を制限してきましたが4月に解除し、新たにサーマルカメラを設置しました。

第2次遊佐町子ども読書活動推進計画に令和6年度までの目標に掲げられている移動図書館車や読書通帳の導入に向け、先進地視察を行いました。今後も図書館協議会と協議を行いながら、導入の検討を行っていきます。

「3 家庭・学校・地域の連携（1）」（シート⑮）では、「家庭教育講座の開催」について評価を行いました。

全ての親への学習機会や情報の提供、相談体系の充実、家庭教育に対する学習機会の効果的な提供を支援するための「やまがた子育て講座」は、4校で開催しました。また、保育園内において、人やもの、自然との関わりを重視した親子の体験的な活動等の提供を支援する「幼児共育ふれあい広場」は、子どもセンターで実施することができました。新型コロナウイルスにより実施数が減少していますが、小学校統合後も小中学校、保育園等で開催に向けての事業説明を行うとともに、まちづくり協議会や各関係機関と連携し、地域の教育力の向上につながる研修機会の充実につなげていきます。

「3 家庭・学校・地域の連携（2）」（シート⑯）では、「放課後子どもプラン推進事業」について評価を行いました。

地域の方々の参画を得ながら、子どもたちの放課後の安全な居場所、活動拠点を確保し、学習や体験活動等の見守りを行っています。

新型コロナウイルスの流行による臨時休校等で、活動休止を余儀なくされた子ども教室もありましたが、今後も、安全な子ども教室の運営に努め、学校、運営スタッフとの連携を強化していきます。

令和4年度からは、高瀬地区放課後子ども教室「たかせっこ」が新規開設されました。また、令和5年度の小学校統合後に伴い、各教室の内容の均整化を図るために各教室と協議を行いました。

10 多様な生涯学習機会の提供

ここでは、施策2項目のうち1項目を取り上げました。

「2 現代的な課題への学習機会の提供」（シート⑰）では、「協働のまちづくり研修会開催事業」と「みんなのセミナー」について評価を行いました。

「協働のまちづくり研修会開催事業」については、コミュニティスクール推進会議に合わせて開催しました。新型コロナウイルスにより人数制限しての開催となりましたが、小学校統合後も学校と地域が協働で取り組む意義と課題について情報共有を図ることができました。

「みんなのセミナー」については、男女がともに地域参画する意識醸成とリーダー育成につながる題材や研修を検討し開催しています。今年度も新型コロナウイルスにより中止となりました。

1 1 次世代につなぐ地域活動の推進

ここでは、施策2項目のうち2項目を取り上げました。

「1 地域教育力の向上(学び合い・教え合い)」(シート⑱)では、「ゆぎオモシロラボ」支援と「二十歳のつどい実行委員会」事業について評価を行いました。

ゆぎオモシロラボでは、町内の若者(18~49歳)から会員を募り会員同士の交流や主催イベントの企画・運営などを通して幅広い交流を図っています。新型コロナウイルスにより、例年実施していたサンタ企画や、今期行う予定であったガンブラ塾が中止となりましたが、昨今の状況下でも可能な新しいイベントの開催が求められます。

令和4年から成人年齢が18歳に引き下げられ、名称が「成人式」から「二十歳のつどい記念式典」へと変更となりました。令和5年、記念式典は行われましたが、交流会は中止となりました。実行委員会に関わることにより、地元に着愛を持ってまちづくりを担う若いリーダーの育成につなげられるよう取り組んでいきます。

「2 地域まちづくり活動の活性化(1)(2)」(シート⑲⑳)では、(1)「生涯学習まちづくり出前講座事業」、(2)「ゆぎエブリワズ・カレッジ2022」の2事業について評価を行いました。

「生涯学習まちづくり出前講座」は、町民が興味や関心を持って学習したい内容を、町職員が要請に応える形で、わかりやすく説明し意見の交流を交えながら学習し地域づくりに活かしていくために開催しています。今年度は新型コロナウイルスの影響がいったん落ち着き開催回数の回復が見られました。その後、県内でも感染者が激増して申し込み後の開催中止も出ました。実施した講座としては、近年の自然災害に対する町民の危機管理意識が高く、昨年度に続き防災に関する講座の要請が多くありました。また、中学校の「総合的な学習の時間」における開催も増えました。これは、各地区区長会や老人会などでのPRに加え教頭会・教務主任会でのアピールも奏功したものと思われ、次年度も積極的に説明の機会を作り広報したいと考えています。

「ゆぎエブリワズ・カレッジ2022」は、多様な生涯学習のニーズを考慮した学習機会の充実を図る目的で実施しています。幅広い年代における生きがいと仲間づくりなどを目指し、地域の特性と人材を活かした講座を、2講座(ちりめん細工講座、料理講座)企画しました。ちりめん細工講座では、受講生の作品を遊佐町芸術祭の展示部門で「縮緬蓮の会」の作品と一緒に展示いただき、発表する機会の提供をいただきました。今後も町民意識調査における町民の関心度に着目し、他の取組事例も参考にしながら、より参加しやすい講座の開設を検討する必要があります。

1 2 うるおいに満ちた芸術文化活動の推進

ここでは、施策4項目のうち1項目を取り上げました。

「2 芸術文化作品鑑賞機会の提供」(シート㉑)では、「第51回遊佐町芸術祭」、「公演会や各種鑑賞機会の提供」について評価を行いました。

芸術祭は、遊佐町芸術文化協会との連携のもと第51回を迎えました。日頃芸術文化活動に取り組む町民の発表の場として、毎年遊佐町芸術文化協会との緊密な連携のもとに開催しており、今後も本町芸術文化振興のため、既存団体の活動の情報発信、新たな団体の発掘と周知に努めていきます。

良質な音楽を鑑賞する機会として、9月に「三人のヴィルトゥオーソ夢の響演」を開催しました。新型コロナウイルス感染予防対策で全席指定240席のでチケットを販売しましたが、チケット販売直前での出演者の変更や、新型コロナウイルスの感染が拡大したためチケットの販売が伸び悩み、完売には至りませんでした。今後も多くの方の癒しとなるようなコンサート事業の開催に努めます。

1 3 文化財等の調査・保存と継承・活用

ここでは、施策2項目のうち2項目を取り上げました。

「1 文化財の調査・保存の推進」(シート㉒)では、文化財保護審議会での協議を中心に、文化財調査・保存推進事業について評価を行いました。

令和4年度の文化財保護審議会の開催は1回のみでしたが、県営圃場整備事業による史跡神矢田遺跡(町指定文化財)の現状変更届提出を受けて、現状変更の可否について協議し、審議会の意見をまとめたこと、また、史跡鳥海山と遊佐象潟道路の進捗状況の報告、そして、史跡小山崎遺跡整備に関する情報提供については継続して実施する必要があることを記述しています。

「2 民俗芸能・民俗行事の保存と継承・活用」(シート㉓)では、主として、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じつつ、3年ぶりに遊佐町民俗芸能公演会を開催したこと、また、令和3年度に新たに取り組んだYouTube「遊佐町公式チャンネル」での各団体の演舞の動画公開を継続して実施したことを併せて記述しました。

1 4 歴史・文化遺産の保存と継承・活用

ここでは、施策2項目のうち2項目を取り上げました。

「1 歴史資料や文化遺産の調査・保存と継承」(シート②4)では、「ゆざ学講座」など町民向けの講演会について評価を行いました。

「ゆざ学講座」は、「ゆざを知り・ゆざに学び・ゆざに生きる」をテーマに、毎年様々な角度から遊佐の歴史や文化について学習してきました。

今年度は、昨年度発刊した「北目菅原家文書目録・調査報告書」の調査を行ったメンバーの3名を講師に迎え、講座を開催したことを主に記述しています。

「2 歴史・文化遺産の活用」(シート②5)では、国指定重要文化財旧青山本邸の一般公開事業を中心に評価を行いました。

旧青山本邸では、入館者数の増を図るため、企画展などを実施してきました。

今年度実施した2つの企画展について、記述しています。

入館者数増の実現は難しい局面にあります。山形県事業「未来に伝える山形の宝」を活用した旧青山本邸を核とした漁業・海運に係る文化財の保存と活用に向けた取り組みの継続、併せて企画展の内容の充実を柱とし、入館者数の増を図っていきます。

1 5 はつらつとした生涯スポーツ活動の推進

ここでは、施策8項目のうち4項目を取り上げました。

「2 関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援(1)」(シート②6)では、「スポーツクラブ等の支援事業」として、遊佐町総合型スポーツ文化クラブ「遊's(ゆず)」の運営支援、補助金交付、イベント共催・支援など、クラブ自立に向けた支援を行いました。

今年度も新型コロナウイルスの影響により中止したイベントがありましたが、感染予防対策を講じることにより昨年度に比べ定期の教室、イベントを多く開催できました。イベントについても初心者を対象にしたキャンプのイベントを開催する等、新しい試みを行っています。

体成分測定会は、昨年度に比べ参加者数が減っているため、今後も事業について随時打ち合わせを行っていき、連携しながら町民の健康意識及び運動習慣の普及啓発に努めていきます。

「2 関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援（2）」（シート㉗）では、「遊佐町スポーツ協会への社会体育施設指定管理委託及び補助金交付によるスポーツ振興」について評価を行いました。

本町体育施設指定管理者の遊佐町スポーツ協会と体育施設連絡調整会議や随時打ち合わせを行い、修繕箇所の検討・計画について情報共有し、緊急度合いを判断しながら修繕等を行ってきました。今年度は大きな工事として以前からの課題であった体育館アリーナの照明 LED・天井改修工事を行いました。また、体育館玄関屋根の補修やスポーツ広場の防球ネット支柱の修繕など、緊急に行う必要のある箇所について対応しました。体育施設が老朽化しているため、今後も随時打ち合わせを行い、計画的に修繕等を行っていきます。また、トレーニングルーム年会費の見直しを行い、令和4年度より改定しました。

東北地区スポーツ推進協議会表彰の受賞や、新型コロナウイルスにより中止してきたスポーツ推進委員協議会によるスポーツイベントが再開されたことなどを特徴的な事項として掲載いたしました。

「4 施設・設備の整備と活用」（シート㉘）では、「冬季レクリエーション施設運営事業」の評価を行いました。

町民がスキーやそり遊びなどの冬季スポーツを楽しみ、健康の維持増進を図れる場を提供するため、鳥海スキークラブの協力のもと、1月～3月の冬期間、三ノ俣に冬季レクリエーション施設を開設しています。今年度は1月の高温で雪どけも心配されましたが、通常どおり開設できました。

アンバーリフトや圧雪車の老朽化が激しく、圧雪車や施設の設備には毎年多額の修繕費が発生しています。圧雪車は特殊車両であり更新には多額の費用が掛かるため、当面は現車両を修繕しながら開設していきませんが、今後検討が必要です。リフトも今期ワイヤーの交換を行いました。モーターやリフト部分の老朽化も深刻な問題となっております。

町内で冬季スポーツができる唯一の施設であり、また、そり遊び等で多くの家族連れが利用していますので、今後も継続して開設できるように関係団体等と連携していきます。

「5 生涯スポーツの推進」（シート㉙）では、「奥の細道鳥海ツーデーマーチ」の評価を行いました。

新型コロナウイルスにより、令和4年度もツーデーマーチでなく規模を縮小した奥の細道鳥海ワンデーマーチ2022を開催しました。3年ぶりに認定コースを設けたことで全国各地から参加があり、また、小中学校の学年行事として親子で参加する方が多く、コロナ禍においてもスポーツの需要があることが分かりました。

子どもたちの「歩育」の推進に向け、幼・保・小中高校との連携や広域連携も視野に入れながら、大人も子どもも日常的なウォーキング活動を啓発し、ツーデーマーチへの参加促進を図っていきます。

1 6 確かな教育行政の推進

ここでは、施策2項目のうち該当施策は無し。

1 7 新型コロナウイルスへの臨時措置

ここでは、学校指導係、文化係の臨時措置を取り上げました。

学校指導係の「新型コロナウイルス感染症予防対策等に係る取組状況」(シート㉔)では、中止・縮小となった主な行事等、学校における感染症予防対策等をまとめました。

文化係の「新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響」(シート㉕)では、旧青山本邸における入館者数の状況や語りべの館や歴史民俗学習館での新型コロナウイルス感染症による影響、規模を縮小して実施した民俗芸能等について記述しました。

Ⅲ 学識経験者の意見

教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検・評価についての意見

東北公益文科大学 教授 松田 憲

平成 29 年 10 月に策定した第 2 次遊佐町教育振興基本計画に基づき、令和 4 年度「教育委員会事務点検・評価報告書」の基本施策ごとの点検・評価の結果及び各施策の事務事業点検評価シートについて令和 5 年 7 月 6 日にヒアリングを行い、教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検・評価が適切に行われたことを確認しました。

以下に、点検・評価の結果で取り上げられた基本施策について意見を述べさせていただきます。

I 未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成

1 乳幼児期の教育と子育て支援の推進

- ・ 幼保小の教職員研修とペアレント・トレーニングは、学校や健康福祉課等と連携を図りながら内容を充実させることを期待しています。
- ・ 野菜生産者との連携により学校給食における県産農作物使用割合が県内上位である長所を生かし、今後も子どもの発達段階や食事面の課題に合わせた食育指導を行うことを期待しています。

2 コミュニティ・スクールの推進

- ・ 学校運営協議会と地域学校協働活動推進員連絡会が連携し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進により教育活動の充実を図ることを期待しています。
- ・ 遊佐中学校 3 年生 70 名中 43 名が参加した学習支援塾は、アンケートの満足度が非常に高いことから、地域の方々の協力をいただきながら今後も継続してほしい。

3 よりよい生き方を育む教育の推進

- ・ 5 つの小学校の「学習素材人材リスト」を 1 つに統合するなど新小学校開設に向けた準備をしっかりと行ってきており、中学校の体験学習において学習効果が高かったと報告のあった日帰りのジオパーク巡りは今後も継続してほしい。

4 確かな学力を育む教育の推進

- ・新校開校により町内に1小学校1中学校となるため、小中一貫教育推進委員会で今後の方向性について十分に検討されることを期待しています。
- ・特別支援教育を推進するための体制として、特別支援教育支援員、特別支援教育アドバイザー、SC・SSWと密接に協力して校内支援体制を充実させ、教職員の特別支援教育力の向上を期待しています。
- ・部活動指導を部活動指導員が担当することによる教員の負担軽減に向けて、今後も部活動指導員の増員を行うことが望まれます。

5 変化に対応する力を育む教育の推進

- ・GIGAスクール構想の推進に向けて、遊佐町教育委員会情報セキュリティポリシーに基づいて教職員全体への情報セキュリティに対する意識を高める取り組みを期待しています。
- ・遊佐高校の入学者増加に向けて、町外・県外からの志願者に加えて町内からの進学者を増やすための情報発信の仕方の工夫や就学支援事業の充実を図ることを期待しています。

6 教育環境の整備の推進

- ・遊佐町立小学校の子どもたちが新しい環境の変化に対応できる体制整備を引き続き進めることを期待しています。

7 青少年の健全育成

- ・全国から注目されている少年議会の取り組みを継続し、地域リーダーの育成を視野に、少ない回数で質の高い全員協議会にできる体制を整えることを期待しています。

II 心豊かに「いのち」輝く町民の育成

9 生涯学習の基礎的環境づくり

- ・図書館の開館時間や休館日の見直しを行って利用しやすい環境整備を行ったのは良いが、館内での事故の発生防止に向けた対策を期待しています。
- ・児童の放課後の安全な居場所確保に向けた放課後子ども教室は5年程度の中期計画とのことであるが、計画的に推進することを期待しています。

10 多様な生涯学習機会の提供

- ・協働のまちづくり研修会開催事業は、アンケート結果から参加者の満足度が高いので継続しての開催を期待しています。

11 次世代につなぐ地域活動の推進

- ・ゆぎオモシロラボは会員数の減少が課題であるが、YouTube等のネット媒体を活用して若い世代に会員として加わってもらえるような活動を期待しています。
- ・生涯学習まちづくり出前講座事業は利用者からの必要性や有益性が指摘されているので広く周知し、ゆぎエブリワズ・カレッジは幅広い年代での生きがいや仲間づくりを目指して特色ある講座の開催を期待しています。

12 うるおいに満ちた芸術文化活動の推進

- ・芸術祭は日頃から芸術文化活動に取り組む町民の貴重な発表の場となっており、今後も継続してほしい取り組みです。

13 文化財等の調査・保存と継承・活用

- ・町指定文化財の保存と活用のため文化財保護審議会を開催して実態調査の実施に向けた検討を期待しています。
- ・民俗芸能・民俗行事は担い手不足と高齢化による保存・継承が課題となっているが、遊佐町民俗芸能公演会 in YouTubeは素晴らしい取り組みであり、地域の各団体の演舞の次世代への記録も兼ねてYouTube等を積極的に活用することを期待しています。

14 歴史・文化遺産の保存と継承・活用

- ・ゆぎ学講座で地元の歴史や文化を学べる機会があることは大切で、今後も旧青山本邸の入館者数増加に向けた取り組みを継続してほしい。

15 はつらつとした生涯スポーツ活動の推進

- ・コロナ禍により中止したイベントもあった中で、感染防止対策を講じて昨年度よりも多くイベントを開催し、初心者を対象にしたキャンプ事業などの新しいイベントを実施するなど、今後も町民の健康促進のためのスポーツイベントの開催を期待しています。
- ・奥の細道鳥海ツーデーマーチは全国各地から906名の参加があったことから、コロナ禍においてもニーズがあることが確認できたので、今後も東北唯一の日本マーチングリーグ加盟のウォーキング大会として観光PRも兼ねて充実させていくことが重要であります。

「教育委員会事務点検・評価報告書 令和4年度事業」について

前酒田市立松原小学校長 寺 嶋 一 郎

このたび、教育委員会事務点検・評価報告書令和4年度事業を拝読させていただき、7月6日には、各担当の方々のお話を直接聞く機会を頂戴しました。

それらを踏まえて、当町教育委員会の取り組みのよさと今後の方向性について感じたことを述べさせていただきます。

1 幼保小間の連携及び学校・家庭との連携による教育のさらなる充実を

○小学校の統合により、町内の幼稚園・保育園と小学校がより連携しやすくなりました。このメリットを最大限生かして、子どもの発達と学びの連続性を大事にした教育をさらに充実させてほしいと思います。その中核となる研修が幼保小担当者研修会です。この研修会で得たことを各園や校内で共有し、幼保小それぞれの教育のさらなる充実を図るとともに、切れ目のない接続につなげて行ってほしいと思います。同一テーマを複数年度追いかける研修会の持ち方は、とてもおもしろいと思いました。研修（今年度）→実践→振り返り→研修（次年度）→実践→振り返りというサイクルにより、研修内容がより各先生方のものになるのではないかと思います。

○遊佐町には、『躍動』する遊佐っ子10か条」という貴重な教育指針があります。幼保小中及び各PTA・家庭において、ぜひ継続して取り組んでほしいと思います。このような指針が各家庭に根付くには長い年月を要すると思われませんが、各機関・団体間で情報交換を行い、成果を共有しながら、ぜひ、取り組みを積み上げて行ってほしいと思います。このことが子ども達の生きる力の基礎を培うことにつながっていきます。

2 学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進とその成果の共有・発信を

○「学校運営協議会の各委員が学校と地域の応援団として積極的に動いてくれている。」という声がよく聞かれます。このことは、遊佐町の学校運営協議会制度がよりよく機能している一つの証だと感じています。

○学校運営協議会と地域学校協働活動が一体的に活動することで、特に実働の部分においてより組織的な取り組みが可能になり、それぞれの目的がよりよく達成されるのではないかと考えます。ぜひ、前に進めてほしいと思います。

○活動の成果を見える化し、参加者で共有することもとても大切な取り組みだと思えます。それによって参加者の達成感や連帯感、そして今後の活動意欲へとつながっていきます。今後に向けてですが、この活動の成果を保護者や町民全体へ広く発信することはできないでしょうか。このようなことが可能になれば、学校と地域との連携にかかわる人々の輪がさらに広がり、学校と地域の応援団が増えていくことが期待できます。

3 郷土愛を育む「ふるさと教育」のさらなる推進を

- 「学習素材人材リスト」は、子ども達が遊佐町の豊かな自然や貴重な文化財等から学び、ふるさとのよさにふれるために必須となるものです。統合前の各小学校の教育実践をまとめる意味でも非常に価値ある取り組みだと感じました。
- 宿泊体験活動の宿泊数については、新小学校が開校したという転換点にあるこの時期に、一度、立ち止まって検討してみることは大切なことだと思います。これまでの成果を踏まえつつも、ふるさと教育全体における宿泊体験活動の位置づけや教員の働き方改革などの多面的な視点で議論を進めてみてはいかがでしょうか。

4 遊佐町の強みを生かした小中一貫教育の検討を

- 1 小学校 1 中学校という連携のしやすさや、学校と地域の協力体制のよさといった遊佐町の強みを生かした特色ある一貫教育を創り上げて行ってほしいと願っています。
- その際、学校教育の最前線に立って奮闘している先生方が、この教育に対しての必要感を持つとともに、手立て等を共有することが大切になってくると思います。そう考えると、一貫教育を構築するプロセスの中で、ボトムアップの流れを取り入れることはどうしても必要になってくると思われます。また、学校現場においては若手教員がますます増えていくことから、若手教員へのベテラン・中堅教員の支援が鍵になります。数年後、この教育が軌道になってきた時、各校の若手教員が自分の言葉で遊佐町の一貫教育を語れるようになることが、成功の鍵ではないかと思います。

5 これらの学校教育を支える「教員の働き方改革」の一層の推進を

- 教員の志願者不足を解消する重要な手段の一つとして、教員の働き方改革があると思います。遊佐中学校では部活動指導員の配置等による部活動改革が大きく進んでおり、先生方の負担が軽減されています。また、町内の学校事務の連携も大きな成果をあげました。今後も、これらの取組みをぜひ前に進めてほしいと願っています。加えて、特別支援教育支援員などの人的配置の充実も、教員の負担軽減に大きく貢献していると思われるので、ぜひとも継続して行ってほしいと思います。
- 一方で、遊佐小学校においては統合一年目ということで、先生方の業務量はどうしても多くなってしまいます。このような状況を踏まえ、当面の間、教育委員会が学校とのコミュニケーションを通して、先生方の業務の効率化に向けて支援することはできないでしょうか。学校内部だけでは見えない効果的に取り組みが見えてくる場合があるかと思います。もちろん、教育委員会事務局職員の皆さんの負担が大きくなり過ぎては困りますので、できる範囲でということになります。

6 家庭教育への支援の継続を

- 「家庭は教育の原点である」と言われますが、昨今、子育てに悩みを抱えている保護者が多くなっているように感じています。そんな中、「ペアレント・トレーニング」とともに、「子育て講座」や「ふれあい広場」等の家庭教育支援にかかわる事業は、ますますその重要性が増してきています。ぜひ、これからも保護者の学びの場を継続して提供して行ってほしいと思います。

7 町民が身近に感じ、学びを深められる文化遺産の活用を

- 遊佐小学校の HP に町内の遺跡や文化施設を訪ねて学びを深める学習場面が掲載されていました。子ども達が町内の文化遺産に直接ふれ、そこから学んでいくことは、ふるさとへの誇りと愛着を持つことにつながっていくものと考えます。ぜひ、これからも子どもも大人もこのような学びが気軽にできるようにご配慮をお願いします。

このたび、事務事業の点検・評価にかかわる報告をお聞きし、改めて、各事業の成果が確実に上がっており、遊佐町の教育行政が着実に前進していることを感じる事ができました。

各係の職員の皆様方のお話からは、町民や学校の思いや願いによく耳を傾けてくださっていることが伝わってきました。だからこそ、各事業が町民や学校とかみ合い、数々の成果につながっているのだと思いました。

教育長様をはじめとする職員の皆様方のご尽力に敬意を表するとともに、今後、ますますの遊佐町教育の発展をご祈念申し上げます。

IV 教育委員会の活動状況

1 教育委員会の委員

教育委員会は、政治的中立性を維持しつつ、安定性・持続性を確保して教育行政を管理・執行するため、首長から独立した合議体の執行機関として設置されています。

遊佐町教育委員会は、平成29年10月31日までは、旧制度の移行措置により、町長が議会の同意を得て任命した教育長を含む5人の委員で組織されていましたが、

平成29年10月31日の旧制度での教育長の任期満了に伴い新しい教育委員会制度に移行し、新教育長を除く4名の委員で組織しています。

【遊佐町教育委員会委員名簿】

(平成29年11月1日・新教育委員会制度へ移行)

職名	氏名	就任年月日	備考
委員	石川 茂稔	平成23年10月1日	4期目 (～R7.9.30) 教育長職務代理者
委員	石山 幸子	平成24年10月1日	3期目 (～R5.9.30)
委員	齊藤 敦子	平成29年10月1日	2期目 (～R7.9.30)
委員	土門 宏典	令和 3年10月1日	2期目 (～R8.12.31)
教育長	土門 敦	令和 4年 7月1日	1期目 (～R5.10.31)

*教育委員会は、教育長及び4人の委員をもって組織する(地教行法第3条)。教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表する(地教行法第13条)。しかし教育長は、教育委員会の構成員であるが、委員ではない。

2 教育委員会の主な職務権限

- 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること並びに主要な教育施策の確立、変更及び実施に関すること。
- 規則、訓令の制定及び改廃に関すること。
- 不服申し立て及び訴訟に関すること。
- 職員の任免、分限及び懲戒に関すること。
- 学校その他教育機関の設置及び廃止に関すること。
- 通学区域の設定および変更に関すること。
- 教育予算その他、議会の議決を経るべき事件の議案についての意見申出に関すること。
- 教科用図書採択に関すること。
- 要保護及び準要保護児童生徒の認定に関すること。
- 附属機関の委員の任免、委嘱及び解職に関すること。
- 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関すること。

これらについて、教育委員会会議において審議し、会議以外にも多岐にわたる活動をしています。

3 総合教育会議の開催状況

(1) 第1回総合教育会議

- ① 期 日：令和4年7月25日（月）
- ② 協議内容
 - ・遊佐町立小学校開校準備委員会の進捗状況について
 - ・令和3年度教育委員会事務点検・評価報告書について

(2) 第2回総合教育会議

- ① 期 日：令和5年2月13日（月）
- ② 協議内容
 - ・遊佐町立小学校開校準備委員会の進捗状況について
 - ・令和5年度教育委員会重点事業について

4 教育委員会会議の開催状況及び審議内容

令和4年度は、8回の教育委員会会議を開催し、下表のとおり22件の議案について審議しました。

【教育委員会会議の審議件数一覧】

事 項	審議件数	主な内容
教育に関する事務の執行管理基本方針並び評価	6件	令和5年度遊佐町行政の重点目標（学校教育）等
教育委員会規則等の制定及び改廃	6件	遊佐町体育施設管理運営規則の一部改正等
職員の人事に関する事	3件	令和5年度遊佐町立小中学校教職員の人事案等
議会の議決を経るべき案件の意見申出	0件	
教科書の採択に関する事	3件	令和5年度使用小学校教科用図書及び特別支援学級教科用図書の採択等
附属機関の委員の委嘱及び任命	1件	遊佐町社会教育委員補欠委員の委嘱
審議会等への諮問	0件	
要保護及び準要保護児童生徒の認定	3件	要保護及び準要保護児童生徒認定等
その他	0件	
合 計	22件	

5 教育委員会会議以外の活動内容

教育委員は、教育委員会会議以外にも以下のような活動を行いました。

(1) 協議会の開催（10回）

議案審議の前段階として、議案の素案や各施策の審議事項について事務局から報告を受け、各施策の検討及び委員間での協議を行いました。また、議案作成にあたり、事務局に助言や指導も行いました。

(2) 各協議会や研修会等への出席

新型コロナウイルス感染症予防対策を行ったうえで、遊楽里を会場に庄内地区教育委員会協議会総会が開催され、各市町の現状と課題等について意見交換を行いました。

(3) 学校等への訪問指導（2回）

教育現場（学校と町立図書館等所管の施設）への訪問を行い、運営状況を把握し、活発な意見の交流をしながら、指導や助言を行いました。

今年度は、遊佐中学校の公開研究発表会にも参加し、授業改善の取組への理解を深めました。

(4) その他の行事への出席

小中学校の卒業式と入学式、各小学校閉校式、表彰式に出席しました。

上記の他にも、随時事務局と打ち合わせを行って情報の提供を受け、適宜指導や助言を行いました。



V 事業評価点検評価シート

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】①

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I 未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	1 乳幼児期の教育と子育て支援の推進
	施策	2・4 職員研修の推進、子育て相談や研修の推進

作成：学校指導係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園（認定こども園）や保育園と小学校の教育とを滑らかに接続・発展させるとともに、連携や交流を図ることによって子どもたちの学びと育ちを保障し、いのち輝く子どもを育むために、職員の研修として幼保小担当者研修会を開催する。 ・適切な就学支援のため、園の巡回相談（健康福祉課）に町教委職員が同行して就学児の実態を把握するとともに、保護者向けの就学相談会を開催する。 ・保護者が子どものことをより深く理解し、適切な接し方について学ぶ機会を設けるために、ペアレント・トレーニングを開催する。
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）
<ul style="list-style-type: none"> ・第49回遊佐町幼稚園・保育園・小学校担当者研修会の開催【6月29日（水）】 <ul style="list-style-type: none"> ①教育活動の参観：遊佐小学校、遊佐保育園、参加者21名 ②講演・ワークショップ：「発達や学びの連続性をふまえた幼保小連携の充実～10の姿を通して子どもの育ちを共有する～」 講師：遠田 裕子 氏（認定こども園杉の子幼稚園長） ・幼稚園、保育園、小学校連絡会の開催【1月19日（木）】 ・幼稚園、保育園の巡回相談【年9回（うち1回は町外）】 ・就学相談会の開催【相談件数：6件】 8月17日、18日、23日、26日、29日、9月14日、21日、26日、28日、10月4日、14日 ※これ以外に延べ6回の個別相談あり ・ペアレント・トレーニングの開催 講師 山形県立こころの医療センター 臨床心理士・公認心理師 木村智則 氏 遊佐町特別支援教育アドバイザー 臨床心理士・公認心理師 須階清佳 氏 参加者 遊佐町内幼稚園・保育園・小学校の保護者等2名 ① 第1回 ペアトレの基本的な考え方・行動をわける 5月27日（金） ② 第2回 ほめることを習慣にしよう 6月10日（金） ③ 第3回 好ましくない行動を変える 6月24日（金） ④ 第4回 ほめるために待つ 7月15日（金） ⑤ 第5回 制限を設ける・今までの復習 8月5日（金） ※③は参加者に体調不良が出たため中止。④に③・④の内容を合わせて行った。
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小担当者研修会では、保育園・小学校それぞれの子どもたちの「輝いていた場面」を参観者が写真に撮り、その場면을可能にした環境構成・働きかけのよさを皆で共有する研修を行った。普段は気づかない視点で子どもの姿を捉えることができたという感想が多

く、講演やワークショップが好評だった。

- ・ 幼保小連絡会では、4つの園の年長児担任、5つの小学校の教務主任が、新校開校後の新学級編制について、情報交換や編制作業に取り組んだ。人間関係や家庭環境、必要となる合理的な配慮など、ていねいに資料化し切れ目ない支援につなげることができた。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・ 園の巡回相談に町教委所属の特別支援教育アドバイザーが同行することのよさも大きい
が、依頼できる年間時数も限りがあるため、次年度は同行回数を限定したい。
- ・ ペアレント・トレーニングは前年度の反省（9月～12月では天候が悪い）から開催時期
を早めての実施としたが、周知の期間が短いこと、園の巡回相談で配慮が必要な保護者の
方へ個別に周知いただくことができないこと等のデメリットも生じ、参加者の減少につな
がってしまった。来年度は開催時期を再考したい。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・ 幼保小担当者研修会やペアレント・トレーニングは、学校や町健康福祉課等との連携を
図りながら、より多くの保護者に周知していく方法を検討する。
- ・ 令和5年度から小学校が一つになるため、幼保小連絡会の機能を段階的に小学校に引き
継いでいく準備を進める。
- ・ 園の巡回相談では、町教委所属の特別支援教育アドバイザーは全8回の巡回相談のうち、
4回の同行とする。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】②

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	1	乳幼児期の教育と子育て支援の推進
	施策	3	給食の充実と食育の推進

作成：総務学事係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
○町内全ての保育園・幼稚園・小中学校で食育に関する実践が効果的に進められるようにサポートする。 <ul style="list-style-type: none"> ・各学校独自のプログラムによる、食と健康、環境との繋がりを中心とした学習の展開 ・栄養教諭の巡回指導による、食に対する正しい知識や望ましい食習慣に関する学習 ・野菜生産者と連携しながらの給食内容の一層の充実
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の県産農産物の使用率 野菜 48.1%、果物 80.9%、生肉 84.1% ・食育推進事業における各学校配当予算額 遊佐小 44,000 円、藤崎小・遊佐中 32,000 円、他の小学校 22,000 円
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・遊佐町は学校給食における県産農作物使用割合が県内上位である。 ・学校と野菜生産者の連携を密にし、安定した価格での新鮮で安全な食材を仕入れることができ、給食で季節の野菜を豊富に提供することができている。 ・令和5年度の小学校統合に伴う給食食材納入業者の調整を行った。 ・発達段階や食事面での課題（好き嫌いや食の広がり等）に合わせた栄養教諭の食育指導により、食事の重要性を考えるきっかけ作りができた。
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・食事の大半は家庭でとることから、家庭と連携した取組みを充実させるため、学校での食育で得た興味・関心を、家庭での実践に繋げていく必要がある。 ・食べたことのない料理や食材に苦手意識を持つ児童生徒への対応や取組みについて考えていく必要がある。 ・令和5年度の小学校統合に伴い、一度に納入する量が増えたことによる課題を野菜生産者に確認し整理する。
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食及び各教科のなかで、児童生徒が自ら量やバランスを考えて食事する力を育ていけるよう取り組んでいく。 ・野菜生産者が安心して継続的に納入できるよう調整していく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】③

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	2	コミュニティ・スクールの推進
	施策	1	「学校運営協議会」を活かす学校運営の推進

作成：学校指導係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を機能させ、学校と地域が目標や情報を共有して地域の声を学校運営に生かしたコミュニティ・スクールの推進する。 ・地域学校協働活動推進員を委嘱し、地域人材やまちづくり協議会等の教育力を生かした教育活動を推進する。
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）
<ul style="list-style-type: none"> ・全小中学校で学校運営協議会を開催（社会教育アドバイザーによる助言と運営補助） <ul style="list-style-type: none"> 蕨岡小学校 【①5月 9日 ②10月17日】 遊佐小学校 【①5月12日 ②10月28日】 高瀬小学校 【①6月20日 ②11月14日】 吹浦小学校 【①6月 3日 ②10月21日】 藤崎小学校 【①5月10日 ② 1月17日】 遊佐中学校 【①6月22日 ②10月 5日 ③2月16日】 ・コミュニティ・スクール推進会議の開催【5/23 2/28】 <ul style="list-style-type: none"> 第1回推進会議：令和5年度からの遊佐町のCSと地域学校協働活動の在り方 第2回推進会議：協働のまちづくりを進めるためにできること（年度の振り返りと次年度構想）※「協働のまちづくり研修会」と兼ねて開催 ・7名の地域学校協働活動推進員の委嘱【5/30、7/13、1/25に推進員連絡会を開催】（統括的な推進員は「学校教育コーディネーター」の職名で委嘱）
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を機能させる工夫として、拡大運営協議会（全教職員や中学生の参加など）を開催するなど、各校ごと充実した取組みが継続されている。 ・第2回のCS推進会議で、昨年度までの課題であった「成果の見える化」に取り組むため、グループワークでこれまでの成果をまとめ、参加者と共有できた。
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・新小学校開校を受けた新たな学校運営協議会の基本方針を確実に実施していく。 ・小学校の地域学校協働活動について、新しいかたちづくりに取り組む必要がある。（これまで5小学校が窓口となってきたが、次年度以降は1小学校が窓口となるため）学校の負担を減らし、よりよい連携を築き、地域・学校双方にとって、お互いがかけがえのない関係となるよう地域学校協働活動推進員連絡会の在り方を検討していく。
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進による教育活動の充実を図る。 ・地域学校協働活動推進員連絡会の時期や回数、学校運営協議会との関係の在り方などについて改善を図っていく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】④

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	2	コミュニティ・スクールの推進
	施策	2	学校支援地域活動の推進（学習支援塾）

作成：学校指導係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

- ・希望する遊佐中学校3年生を対象に、部活動を引退した後の9～2月の毎週土曜日（年20回程度）、スクールバスの運行に合わせて午前中に学習支援塾を開催する。
- ・ねらいは、①「夢の実現に向け、勉強して力をつけよう」：夢の実現（希望進路の実現）のために学習意欲を高め、学習習慣をつける一つの機会となるようにすること、②「講師の先生方に感謝の気持ちで学ぼう」：地域社会が一体となって教育を支える機会とし、地域の先生と触れあうことで、子どもが地域に温かく育てられている実感をもてるようにすること、である。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）

- ・参加者：43名（遊佐中3年生70名中）
- ・講師：11名（元教員2名、地域の方々4名、町特別支援教育支援員3名、地域おこし協力隊1名、社会教育アドバイザー1名）
- ・運営スタッフ：1名（学校教育コーディネーター（統括的な推進員））
- ・会場：生涯学習センター（第1・2研修室、視聴覚室、ボランティアルーム）
- ・開催回数：15回（9月～2月）

- ・時間割等：
 - 1時間目 9：00～10：00
【移動・休憩】
 - 2時間目 10：10～11：10
【連絡・後片付け・清掃】
 - 終了 11：20

	1組		2・3組	
1時間目	数学 基礎	数学 応用	英語 基礎	英語 応用
2時間目	英語 基礎	英語 応用	数学 基礎	数学 応用

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ・参加者アンケートの結果
よかった（91%）、どちらかというよかった（9%）
- ・参加者の意欲が高く、参加した効果を実感している感想がほとんどだった。「友達と学び合う時間が多く、楽しく学習できた。」「土曜日の朝早く起きて、生活リズムが整った。」「自分のペースでじっくり取り組めて良かった。」「受験に向かう心構えができた。」といった感想もあり、学習支援塾のねらいに沿った取り組みになっていると評価できる。
- ・講師として多くの方々にご協力いただき、生徒に個別に対応することができた。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・充実した学習支援塾にするためには、継続した人材確保が必要である。
- ・学習支援塾開催中は生涯学習センターの4部屋を使用するため、他団体の利用について不都合が生じないように配慮していく必要がある。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・今後も統括的な地域学校協働活動推進員を中心としながら企画運営し、開催方法を工夫しながら、次年度も学習支援塾を開催する。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑤

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	3	よりよい生き方を育む教育の推進
	施策	5	ふるさと教育の推進

作成：学校指導係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）																	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざす自然、歴史、文化等に学ぶふるさと教育を推進するために、宿泊体験を含む自然体験学習活動を行う。 ・「学習素材人材リスト」を作成し、令和5年度の新小学校開校後の地域学校協働活動に向けた準備を進める。 																	
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）																	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校自然教室 <table border="0" style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:25%;">5年生</td> <td style="width:25%;">1泊4日（蕨岡）</td> <td style="width:25%;">2泊4日（遊佐）</td> <td style="width:25%;">4泊5日（高瀬）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3日間（吹浦）</td> <td>2泊3日（藤崎）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>2日間（蕨岡）</td> <td>3日間（遊佐）</td> <td>2泊3日（高瀬）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3日間（吹浦）</td> <td>1泊2日（藤崎）</td> <td></td> </tr> </table> ・中学校自然体験学習（1年生） 3組に分かれ、3日間ジオパーク巡り ・遊佐中学校1年生が「鳥海山・飛島ジオパーク学習発表会」【12月3日（土）にかほ市】に参加し発表を行った。 ・藤崎小学校が、長年に渡り継続して松林の保全活動に取り組み、多くの方に考えてもらえるよう、啓発活動にも熱心に取り組んでいることが評価され、令和3年度・令和4年度と「やまがたカーボンニュートラル大使*」に選ばれる。 *環境に関心を持ち、取り組みを実践している小中高校生のグループに委嘱されるもの ・学習素材人材リストの作成作業に、令和3年度から学校教育コーディネーターが中心となって取り組み、令和4年度に完成した。 素材数は64（総合12 国語11 社会2 理科5 図工5 音楽2 体育5 その他22） 人材数は98人 		5年生	1泊4日（蕨岡）	2泊4日（遊佐）	4泊5日（高瀬）		3日間（吹浦）	2泊3日（藤崎）		4年生	2日間（蕨岡）	3日間（遊佐）	2泊3日（高瀬）		3日間（吹浦）	1泊2日（藤崎）	
5年生	1泊4日（蕨岡）	2泊4日（遊佐）	4泊5日（高瀬）														
	3日間（吹浦）	2泊3日（藤崎）															
4年生	2日間（蕨岡）	3日間（遊佐）	2泊3日（高瀬）														
	3日間（吹浦）	1泊2日（藤崎）															
○成果（特徴的な事項や良かった点など）																	
<ul style="list-style-type: none"> ・海、川、松林、湧水などの自然にどっぷりと浸る体験活動の機会を確保することができた。 ・クロマツ保全や稲作学習等の体験活動を新小学校開校後へも引き継げるよう、学校教育コーディネーターが中心となり、各団体や協力者と調整を図ることができた。 ・学習素材人材リストには、各小学校でこれまで積み重ねてきた財産である主な体験活動やそれに関わる講師の方々をまとめることができた。 																	
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）																	
<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、4年生（2泊3日）、5年生（4泊5日）の宿泊体験学習を規模縮小して実施していた。次年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなるが、新小学校開校直後の児童や教職員の負担を少しでも減らすために、実施方法について検討を必要とする。 ・中学校の体験学習は、今年度実施した日程（日帰りの3日間で可能な限りのジオパーク巡り）での学習効果が高かったとの報告があり、次年度以降も継続が望ましい。 																	

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・遊佐町が長年行ってきた宿泊体験学習（4年生は2泊3日、5年生は4泊5日）の教育的効果は高いことが認められるが、新小学校開校後しばらくの間は、日常生活の安定と充実を優先させていきたいという校長会の意向を踏まえ、4年生は1泊2日、5年生は2泊3日の宿泊体験学習とする。
- ・中学校の体験学習は、今後、宿泊を伴わない形での実施とする。
- ・地域素材人材リストについては、令和5年度以降も地域学校協働活動推進員を中心に更新していく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑥

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	4	確かな学力を育む教育の推進
	施策	1	児童生徒理解に基づく学力育成策の確立
		2	探究的な学習の推進

作成：学校指導係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上調査研究委員会を年2回開催し、小中一貫教育に関わる研修や小中連携の在り方の検討会を行う。 ・町教育委員会委嘱公開研究発表会、町外国語担当者研修会の実施と各小中学校の授業研究会等での授業改善に向けた指導助言を行う。 ・小学4年生～中学3年生を対象に「遊佐町子どもの声調査」を7・12月に行い、共通した15項目で町全体の児童生徒の実態を把握する（5年目）。
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）
<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上調査研究委員会による研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ①酒田市の小中一貫教育に学ぶ【5月19日（木）】 講師：齋藤正光課長補佐（酒田市教育委員会より） ②遊佐中の取組みから小中連携の姿をリデザインする【8月25日】 ・遊佐中の取組みについて確認後、遊佐町小中連携の在り方についてグループ協議 ・町教育委員会委嘱研究校（遊佐中） 公開研究発表会：遊佐中【10月12日（水）】 研究主題「教科の本質的なおもしろさを感じさせる授業づくり」 ・各校の授業研究会や経営訪問等における授業改善に向けた指導（全小中学校） ・町外国語担当者研修会【11月15日（火）】 <ul style="list-style-type: none"> ①遊佐町立吹浦小学校4年生・渡部真弓教諭より授業提供 ②庄内教育事務所指導課・本間徳仁指導主事より小中一貫という視点で実践紹介 ・遊佐町子どもの声調査を7・12月に実施し、集計結果を町校長会、町学力向上調査研究委員会、各校と情報共有
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫した教育の可能性や方向性を探ることができた。 ・小中の教員が同じ授業を参観し、子どもの姿を見取る視点を一緒に学ぶことができた。 ・子どもの声調査を継続実施したことで、全町的な児童生徒の実態と経年変化の把握をすることができ、各校での取組みの成果と課題を客観的に捉えることができた。
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も教科の学習が好きになる（学ぶ楽しさを実感できる）授業づくりを推進する。
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も教科の学習が好きになる（学ぶ楽しさを実感できる）授業づくりに焦点化するとともに、小中一貫した取組みに力を入れていく。 ・新校開校にともない町内に1小学校1中学校となるため、その強みを生かしていく。そのため、次年度は（幼保）小中一貫教育推進委員会を立ち上げ、今後の方向性を検討する。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑦

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	4	確かな学力を育む教育の推進
	施策	6	特別支援教育の推進

作成：学校指導係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・各校に特別支援教育支援員を配置し、特別な支援を要する児童生徒に対して、学習・生活面の支援を行う。 ・各小学校に特別支援教育アドバイザーを派遣し、特別な支援を必要とする児童の指導について、指導・助言を行う。 ・中学校にスクールカウンセラー（SC）を配置し、学校生活を送るうえで課題を抱えている生徒の理解と支援の方策について助言する。 ・スクールソーシャルワーカー（SSW）を配置し、問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働き掛け、関係機関等とのネットワークの構築や連絡・調整、保護者・教職員等に対する支援・相談・情報提供等を図る。 ・児童生徒の特別な教育的ニーズに対応できるよう教職員の研修の機会を充実させる。 	
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員の配置：小学校5校に10名、中学校に4名【計14名】 （7時間45分勤務、小学校年223日・中学校209日） ・特別支援教育アドバイザーの派遣： 定期訪問：各小学校3回ずつ（春・秋・冬）、各学校からの要請による訪問：96回 ・SCの配置：中学校に年39回（1回4時間、午後） ※県予算 ・SSWの配置：1回当たり3～6間程度、年588時間 ※主に県予算（一部町予算） ・特別支援教育コーディネーター研修会の開催【11月10日、2月21日】 講師：遊佐町特別支援教育アドバイザー 須階 清佳 氏（臨床心理士・公認心理師） 遊佐町特別支援教育アドバイザー 菅原 千鶴 氏（臨床心理士・公認心理師） ・特別支援教育支援員研修会の開催【7月19日】 講師：SSW 渡會 敦子 氏（社会福祉士） ・スーパービジョンの開催【12月7日】 スーパーバイザー 松本 千鶴子 氏（臨床心理士・公認心理師）を招聘 	
○成果（特徴的な事項や良かった点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・14名の特別支援教育支援員の配置により、組織的な対応や一人一人の教育的ニーズに応じた支援が幅広く行われた。 ・特別支援教育アドバイザーによる保護者や学校への助言、SSWによる家庭訪問等の直接的な働き掛け、SCによる生徒への丁寧なカウンセリングにより、支援体制が充実した。 ・今年度から県予算でのSSW配置が加わったため、配置時数が前年度比で大きく増やすことができた。SSWの対応事案、関わるケース会議等は年々増加しており、専門的な立場から活躍いただいている。 	

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・SSWやSC、特別支援教育アドバイザーが長年継続支援している児童生徒、保護者は多い。町の中でも貴重な役割を果たしている。今後も継続して関わっていただくよう働きかけていきたい。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・充実した特別支援教育支援員・特別支援教育アドバイザー・SC・SSWの配置を効果的に活用し、校内支援体制の整備や教職員の特別支援教育力の向上を図っていく。

遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑧

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	4	確かな学力を育む教育の推進
	施策	8	教職員のゆとり創造と研修の推進

作成：学校指導係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の多忙化の要因の一つとなっている部活動の指導について、教職員の働き方改革の取組みの一つとして、部活動指導員を配置することにより、部活動を担当する教員の支援を行う。 ・学校事務の連携・共同実施を行うことで、小中学校の学校間の連携を強化し、相互に支援することにより、効率的・効果的な事務処理体制の確立と事務職員の資質向上を図り、学校運営を支える機能を充実させ、地域や学校教育活動の活性化につなげる。
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校休日対応型部活動指導員の配置【11名・11部活動】※R3は5名・5部活動 男子バスケットボール、女子バスケットボール、女子バレーボール、柔道、剣道、ソフトテニス、卓球、陸上、野球、女子ソフトボール、吹奏楽 令和4年度総配置時数：1594時間（R3年度は617時間） ・学校事務の連携・共同実施 拠点校：遊佐小 連携校：蕨岡小、高瀬小、吹浦小、藤崎小、遊佐中 学校事務の連携・共同実施運営協議会の開催（4/27、10/26、2/22） 学校事務の連携・共同実施の実務会議（年7回開催）
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、令和5年度以降の土日の部活動の段階的な地域移行に向けて、中学校のすべての部活動（吹奏楽含む）について、休日対応型部活動指導員を配置することができた。休日対応型部活動指導員の配置により、部活動を担当する教員の負担が軽減された。 ・部活動指導員説明会や中学校部活動担当者会の場で、遊佐町中学校部活動等ガイドラインや遊佐町における今後の部活動地域移行の方向性等に関して周知することができた。 ・学校事務の連携・共同実施では、学校事務職員相互の連携・協力により、的確で迅速な事務執行や研修を行い、学校事務職員の専門性を高め、学校事務の機能の強化につながった。閉校や開校に伴う作業についても、メンバーの得意分野を生かして、6校の事務職員が業務分担や業務支援して作業を進めることができた。（学校集金システムについての確立、文書・備品の引っ越し等）
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革を進めるため、部活動の地域移行が完了するまで、中学校休日型部活動指導員の配置を継続していく必要がある。陸上部は、部員数が多いこと指導内容が多岐にわたることから指導員の増員を検討する。 ・学校事務の連携・共同実施にあたっては、今後も継続していくことが望ましい。
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、陸上部の休日対応型部活動指導員を増員していく。 ・学校事務の連携・共同実施については、県のモデル校として取組みを継続する。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑨

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	5	変化に対応する力を育む教育の推進
	施策	2	情報教育の推進

作成：総務学事係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校統合に向け、情報教育推進のため、受け入れ整備を図る。 ・遊佐町教育委員会の情報セキュリティポリシーの周知を図る。
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）
<ul style="list-style-type: none"> ・遊佐小学校増築校舎無線 LAN 整備委託・・・・・・・・・・・・・・・・ 2, 420, 000円 ・遊佐小学校増築校舎大型掲示装置設置（備品購入）・・・・・・・・ 1, 253, 600円 ・学校ネットワーク IPoE 対応ルータ導入委託・・・・・・・・・・・・ 337, 700円 ・遊佐・蕨岡・藤崎小学校学習用タブレット等賃貸借 ・・・・・・・・月 233, 750円（5年長期契約） ・小・中学校緊急連絡メール新システム ・・・・・・・・月 27, 500円（5年長期契約） <p>9月27日に学校セキュリティ担当者会議を開催し、令和3年度に整備策定した遊佐町教育委員会情報セキュリティポリシーについて、小中学校の担当者への説明を行った。</p>
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<p>1人1台端末の環境により、各校で児童生徒が ICT 機器を利用する機会が増え、ネットワークの遅延が見受けられたが、無線 LAN のポイントを増やし改善を図った。</p> <p>また、令和3年度に作成した遊佐町教育委員会情報セキュリティポリシーについて、教職員担当者へむけた研修会を実施した。</p> <p>1人1台端末の環境を維持できるよう端末管理を徹底することにより、中学校では端末持ち帰り学習が本格運用されている。</p>
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<p>小学校が統合し生徒数が増えた中、1人1台パソコンの環境を最大限活用するため、先生方の意見を取り入れつつ、運用方法を検討していく必要がある。</p> <p>令和3年度に基本方針を定めた情報セキュリティポリシーについて、教職員全体への周知を図り、個々のセキュリティに対する意識を高める必要がある。</p>
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<p>中学校では端末持ち帰り学習を定期的実施しているが、小学校ではまだ運用できていない状況である。本格運用させ、ICT 機器の利点である個別最適な学習を進めるとともに、情報セキュリティや、情報モラルなどへも配慮した意識づけを行っていきたい。</p>

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑩

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	5	変化に対応する力を育む教育の推進
	施策	3	高校や大学等との連携の推進

作成：総務学事係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

遊佐高校支援の会（事務局：教育課総務学事係）に町が補助金を交付し（財源は、ふるさと納税）、同会が事業主体となって各種支援事業を実施した。

- ① 介護職員初任者研修受講支援金（受講料 30,000 円に対し、25,000 円を給付）
- ② 進路指導補助費（P T A活動維持のため生徒減による P T A会費減収分を支援）
- ③ 学習活動支援費（校外学習や企業説明会等の際の移動バス借上げ料等の支援）
- ④ キャリアアップ支援（普通自動車運転免許取得に対し、60,000 円を給付）
- ⑤ 通学支援（公共交通機関による通学が困難な生徒を対象に登下校のタクシー運行、J R通学定期券により通学している生徒へ定期券の購入費補助）
- ⑥ 就学支援金（入学予定者に対し、70,000 円を給付）
- ⑦ 教育振興補助金（体育振興及び文化交流事業）
- ⑧ 事業推進費（支援事業周知広告部作成、消耗品、振込手数料等）

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）

- ① 介護職員初任者研修受講支援金 125,000 円（5 人）
 - ② 進路指導補助費 486,000 円（遊佐高校後援会へ給付）
 - ③ 学習活動支援費 216,700 円（移動バス代等 4 件）
 - ④ キャリアアップ支援 1,320,000 円（22 人）
 - ⑤ 通学支援運行費 3,025,840 円
（通学タクシー3 路線 利用生徒 9 人／J R定期券購入補助 利用生徒 21 人）
 - ⑥ 就学支援金 2,030,000 円（R 4 入学者 5 人、R 5 入学予定者 24 人）
 - ⑦ 教育振興補助金 585,000 円（体育振興・文化交流）
 - ⑧ 事業推進費 266,000 円（ポスター、チラシ、振込手数料等）
 - ⑨ 操出金 2,871,000 円（県外募集事業の R 3 残額分を遊佐高等学校魅力化に係る地域連携協議会へ操出）
- 合計 10,925,540 円

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ・令和 5 年度入学者選抜試験は、推薦を含め 2 4 人の志願者があり、全員が合格し、入学する。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・町外・県外からの志願者の割合が高く、地元の中学生からの進学が少ない状況が続いているため、地元の中学生へ向けた情報発信の仕方や、支援内容を再検討していく。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

数ある高校の中から遊佐高校が選ばれるための魅力化を遊佐高等学校魅力化に係る地域連携協議会や遊佐高校と連携・協力し行う。また、地元の中学生から遊佐高校に行きたいと思ってもらうきっかけづくりとして、効果的な情報発信に努める。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑪

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	6	教育環境の整備の推進
	施策	4	小中学校の適正整備の推進

作成：総務学事係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<ul style="list-style-type: none"> ・「遊佐町立小学校新校開校準備委員会」について、各組織の異動や役員改選を考慮し、理事23名、委員35名、計58名（各地区、各小学校のPTA、各小学校の教職員、各保育園・幼稚園の保護者会から推薦された方及び識見者）を改めて決定した。 ・3つの部会である総務部会、PTA部会、学校部会において、それぞれ具体的な事項に関する協議を実施した。 ・理事会は2回開催したが、総会はコロナ禍のため、人数の多さを考慮し開催せず、これまでの経過を書面にて報告した。
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）
<ul style="list-style-type: none"> ・「遊佐町立小学校新校開校準備委員会」 <ul style="list-style-type: none"> 理 事 会：2回開催（児童の放課後の居場所づくり検討会の協議結果報告書の決議、スクールバスのバス停の新設等の決議、見守り隊の方向性の決議、各工事の進捗状況・校歌の制定・校旗の購入・スクールバスの試運転等について報告） 総 会：0回開催（コロナ禍のため、理事、委員への3月末に資料送付） 総務部会：2回開催（児童の放課後の居場所づくり検討会協議結果の確認、見守り隊の方向性の検討、各工事の進捗状況の確認、校歌制定状況ほか、各検討事項の進捗状況の確認） PTA部会：1回開催（スクールバスの運行方針、新路線・乗降場所の検討） 学校部会：1回開催（交流学习の実施、新校のランドデザイン（案）・新校の年間教育計画の検討）
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であり、総会が開催できない状況であったが、総務部会、PTA部会、学校部会の3つの部会でそれぞれ協議を進めることができ、新校開校に向けた準備を計画どおり進めることができた。
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・新校開校後の学校経営において、引き続き学校と連携しながら、それぞれ課題となる案件を整理していく。
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが落ち着いて学べる学校経営、子どもたちが新しい環境の変化に対応できる体制整備を引き続き進めていく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑫

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	7	青少年の健全育成
	施策	1	社会参加を促す活動の推進

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

●少年町長・少年議員公選事業

町内に在住・在学の中高生を対象とし、全員が少年町長・少年議員の選挙権と被選挙権を有す。有権者（中高生）の中から立候補者を募集し、有権者の投票により、町の若者の代表として少年町長・少年議員を選出する。選出された少年町長・少年議員が有権者の声を参考に、町への要望や少年議会独自の政策を立案し、少年議会の場で一般質問や政策提言を行う。

また、政策を提言するだけでなく、政策実現予算（45万円）を活用し、実際に政策実現のために活動することで少年町長・少年議員個人の成長だけでなく、若者の社会参加を促進する。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）

- ・予算額：935,000円 決算見込額：829,932円
 （内、少年議会での政策実現予算額：450,000円 決算見込額：450,000円）
- ※第20期遊佐町少年議会政策施行事業委託料
- ・有権者数：592名（昨年度605名）
- ・有権者アンケートで意見を出した人数：489名（昨年度516名）
- ・立候補者：18名（中学生6名、高校生12名）
- ※町長1名（定員1）、副町長1名、議員10名（定員10）、少年監査2名、少年事務局長1名、少年事務局次長3名
- ・提言政策
 - ①ゆざマルシェの開催
 - ②特産品の開発

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ・山形県の投票率の高さから主権者教育という観点で、メディアからの取材や、全国各地からの行政視察が多かった。きっかけは2021年のマニフェスト大賞を受賞したことや、その後複数回全国放送で取り上げられたことが考えられる。
- ・町議員との意見交換会も4年目に突入し、活発な意見交換が行われた。
- ・2つの政策は、施政方針でもある「魅力発掘～ココロオドルまちづくり～」をテーマに決定し、事業を進めていった。政策を進めていく中で、行き詰った時には施政方針に沿った形で考え実行に移していった。
- ・これまで事業説明会を行ったことがない3校（遊佐・蕨岡・吹浦）で開催することができた。吹浦地区からはここ4年間立候補者がいないことから立候補に繋がることを期待したい。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・昨年度に続き全員協議会の回数が多く少年議会のメンバーにかかる負担も大きくなっている。少ない回数で質の高い協議会を開催できるような体制を整える必要がある。
- ・次年度から小学校が統合するため、小学校 6 学年 3 クラスに対してどのような事業説明会を行うか検討する必要がある。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・議員自らの意見を尊重し、政策の実現に向けて支援をしていく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑬

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	7	青少年の健全育成
	施策	3	地域全体で育む活動の推進

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）	
<p>●子育てフォーラム開催事業</p> <p>今年度のフォーラムについては、中学校創立 30 周年記念式典、各小学校閉校式、県内を会場とした全国 PTA 研究大会等が実施されるため、それらの事業を優先に考え、開催を見送った</p>	
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）	
<p>例年フォーラムの中で実施している「早起き・朝ごはん・躍動・早寝」並びに「いじめ防止」優秀標語の発表ができなかったため表彰式を実施した。</p> <p>「早起き・朝ごはん・躍動・早寝」並びに「いじめ防止」優秀標語表彰式</p> <p>日 時 令和4年11月3日（木・祝）10時～</p> <p>場 所 生涯学習センター 大会議室</p> <p>参加者 標語優秀作品受賞者 12名（家族3名以内）</p>	
○成果（特徴的な事項や良かった点など）	
<p>優秀標語の表彰を行うことで、児童生徒が知恵を絞って考え、家族が子どもの健やかな成長を願い助言した標語の顕彰を形にすることができた。</p>	
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）	
<p>・実行委員会においては、「小学校統合により、町 PTA 連絡協議会の構成等、体制が変わるためフォーラムの運営体制を見直す必要がある」、「著名な講師に予算をかける必要はない」、「学校、地域での取り組みを知るいい機会である」、「今までと同じスタイルではなく、現状に合わせ見直すべき」等の意見があり、運営体制と内容について再検討する必要がある。</p>	
○今後の方向性（内部評価的な判断）	
<p>・町 PTA 連絡協議会三役会議、実行委員会等で、令和5年度の1年をかけてフォーラムの在り方について検討を行い、持続可能な新しい形での開催を模索していく。</p>	

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑭

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	9	生涯学習の基礎的環境づくり
	施策	2	読書活動の推進

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）	
<p>【図書館運営事業】 <指定管理者からの実績報告より> 子どもの読書活動への取り組み（「子ども読書活動推進計画」実施状況）</p> <p>○ブックスタート（対象：3～4 か月児または昨年度ハイはい絵本を受けていない9 か月児とその保護者） 事業内容：3 か月児検診時に絵本の贈呈、図書館事業の説明、絵本の読み聞かせを実施 実施回数：6回 参加者45組（R3 6回 参加者47組）</p> <p>○わくわくらんど（対象：0～3 歳児とその保護者） 事業内容：乳幼児向けおはなし会 実施回数：9回 参加者66人 ※新型コロナ等により2回中止 （R3 6回 参加者74人）</p> <p>○おはなしわーど（対象：幼児・小学生） 事業内容：幼児・小学生向けおはなし会 実施回数：8回 参加者98人 ※新型コロナにより1回中止 （R3 7回 参加者123人）</p> <p>○おはなしの部屋（対象：小中学生・一般） 事業内容：「とんぴんかだりの会」会員による遊佐の方言での昔語り 実施回数：8回（R3 10回） （藤崎小学校 2回、蕨岡小学校、高瀬小学校、山形県第三宗務所婦人会、鳥海保育園、亀ヶ崎コミュニティ振興会） 参加者417名（R3 366名）</p> <p>○読書感想画展（対象：町内幼稚園・保育園年長児） 事業内容：年長児から、好きな絵本の感想を絵で表現してもらい展示する。 実施回数：1回 出品者：36名（R3 実施回数：1回 出品者：77名）</p> <p>○「親子で選ぶ一冊」（対象 町内小学校一年生とその保護者） 事業内容：国語教科に関連した10冊の絵本の中から、親子で好きな1冊を選んでもらい贈呈する 贈呈人数：5小学校、81名（R3 78名）</p> <p>○遊佐町こども川柳チャレンジ大会（対象：小学生） 事業目的：川柳をとおして活字に親しみ、読書意欲を育むきっかけをつくる 事業内容：川柳募集と川柳講座、作品展示 実施回数：1回 348作品（R3 263作品）</p> <p>○ゴールデンウィーク特別おはなし会 事業内容：幼児、小学生向けおはなし会 実施回数：1回 参加者：22名（R3 新型コロナウイルスにより中止）</p>	

○図書館クイズ～12のなぞ～

実施回数：2日間 参加者36名 (R3 2日間 参加者31名)

○夜の図書館(ブックナイトイブニング) (対象：小中学校学年PTA、地区子ども会)

事業目的：夜間貸切開館を行い、家族と一緒に図書館に来館することで、本や図書館に親しむきっかけをつくる

事業内容：昔語り、DVD上映会、図書の貸出返却、図書館探検

実施回数：1回 参加者45名 (R3 3回 参加者110名)

○実績(数値や表によるデータ、予算・決算見込額など)

・利便性の向上について

*開館日数 : 329日

*休館日 : 第1・3火曜日、年末年始、蔵書点検日(休館日は月2回のみ)

・児童生徒(0歳～18歳)の年間利用状況

*実績	平成28年度	利用人数：3,348人	貸出冊数：12,968冊
	平成29年度	利用人数：3,047人	貸出冊数：12,101冊
	平成30年度	利用人数：2,982人	貸出冊数：11,583冊
	令和元年度	利用人数：2,682人	貸出冊数：11,181冊
	令和2年度	利用人数：2,108人	貸出冊数：9,478冊
	令和3年度	利用人数：1,974人	貸出冊数：10,755冊
	令和4年度	利用人数：1,785人	貸出冊数：8,820冊

*令和4年度町立図書館利用状況は【参考資料2】参照

○成果(特徴的な事項や良かった点など)

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策として、サーマルカメラを設置した。また、図書館の滞在時間上限を2時間としてきたが、4/7より解除した。
- ・近年の図書館の利用状況や利用者アンケートにより、図書館の開館時間、休館日の見直しを行い、令和4年度から開館時間を平日は9時から18時(土日、祝日は17時)、休館日は第1・第3火曜日とした。
- ・図書館における犯罪の未然防止と安全・安心して利用できるように、防犯カメラを設置した。

○課題(改善すべき点や次年度以降への注意点など)

- ・第2次読書活動推進計画の計画期間が令和6年度までのため、第3次計画策定の準備を行っていく。

○今後の方向性(内部評価的な判断)

- ・「第2次遊佐町子ども読書活動推進計画」に基づき、利用者の利便性の向上に向けた移動図書館事業や読書通帳の導入の検討を進めていく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑮

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	9	生涯学習の基礎的環境づくり
	施策	3	家庭・学校・地域の連携（1）

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

●家庭教育講座の開催

【やまがた子育て講座】

すべての保護者への学習機会や情報の提供、相談体制の充実等、家庭教育に関する学習機会の効果的な提供を支援する。 【対象：小学校 PTA（5校）・中学校 PTA（1校）】

【幼児共育ふれあい広場】

幼稚園や保育園等において、人やもの、自然とのかかわりを重視した親子の体験的な活動等の提供を支援する。

【対象：保育園保護者（3園）、子どもセンター・杉の子幼稚園に関わる保護者】

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）

【やまがた子育て講座】

◆ 7月12日：「異性への理解と尊重」（遊佐中学校生徒、保護者76名）
講師：後藤 敬子 氏（ごっと助産院 院長・県家庭教育アドバイザー）

◆ 10月19日：「よねさんの紙芝居ショー」（高瀬小学校 祖父母・保護者35名）
講師：大井 康嗣 氏（米田左之助：庄内街頭紙芝居実践研究会 会長）

◆ 11月25日：「ネットモラル講習会」（蕨岡小学校児童65名）
【コロナ禍のため祖父母・保護者案内を中止】
講師：遠田 健一 氏（庄内教育事務所エリアSSW（スクールソーシャルワーカー））

◆ 2月 1日：「1年生になるということ」（遊佐小学校新1年生保護者56名）
講師：遠田 裕子 氏（杉の子幼稚園 園長・県家庭教育アドバイザー）

【幼児共育ふれあい広場】

◆ 7月29日：「リトミック」（子どもセンター利用親子11名）
講師：加藤 千鶴 氏（音楽教室講師）

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

・新型コロナウイルス感染防止のため、家庭教育講座の開催を見合わせる小学校・保育園・幼稚園があったが、開催場所、参加人数、感染防止の徹底等に配慮し、「やまがた子育て講座」については小学校3校、中学校1校で、「幼児共育ふれあい広場」については子どもセンターで開催することができた。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策を万全に行い、「やまがた子育て講座」「幼児共育ふれあい広場」の開催を実現したい。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・「やまがた子育て講座」を今後も継続して各小・中学校に案内し、保護者の家庭教育に関する学習機会の効果的な提供により、家庭の教育力の向上につなげる。
- ・「幼児共育ふれあい広場」を継続して各保育園、子どもセンター、杉の子幼稚園に案内し、親子の体験的な活動等の機会を確保して家庭の教育力の向上につなげる。

遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑩

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	9	生涯学習の基礎的環境づくり
	施策	3	家庭・学校・地域の連携（2）

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

●放課後子どもプラン推進事業（放課後子ども教室）

- ・地域のボランティアの参画を得て、児童の放課後の安全な居場所を確保し、地域住民との交流や体験活動等を展開している。
- ・藤崎・高瀬・吹浦地区の放課後子ども教室については、令和5年度から空き校舎を活用した開設が決定しており、統合後に向けた運営内容の見直しや校舎の環境整備の準備を進めていく。また、藤崎地区については、2つある子ども教室を1つに再編し、活動拠点を各まちづくりセンターから藤崎小学校の空き校舎へと移設する。
- ・地区毎に放課後子ども教室の運営内容が異なっているため、内容の均整化を図るため、放課後子ども教室関係者との協議、調整を行う。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）

予算額：9,286,000円 決算見込額：8,553,988円

【活動実績】※活動休止：新型コロナウイルスの流行、悪天候による臨時休校

・蕨岡小学校区 学校行事等がない水曜日開催 平日12日 ※活動休止10日
 登録児童（1～3年生）18名 ・スタッフ6名

・藤崎小学校区

ふじっ子クラブ 開設日 平日171日 振替休業日6日 長期休業日26日
 ※活動休止30日

登録児童24名（内4名はまつのっこへも登録） ・スタッフ16名

まつのっこ

開設日 平日174日 振替休業日7日 長期休業27日 ※活動休止33日
 登録児童19名 ・スタッフ7名

・高瀬小学校区

開設日 平日183日 長期休業1日 ※活動休止11日
 登録児童29名 ・スタッフ18名

・吹浦小学校区

開設日 平日182日 ※活動休止14日
 登録児童41名 ・スタッフ18名

※活動休止：新型コロナウイルスの流行、悪天候による臨時休校

【主な活動内容】

- ・軽スポーツ、野外活動等の体験型活動。
- ・自学自習等の学習見守り。

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ・空き校舎の活用の決定が遅れたため、全体的なスケジュールにも影響があった。
- ・小学校統合後の子ども教室の運営については、各子ども教室との打合せ会を経て、放課後子ども教室全体会議で協議を行い、スタッフの意見を反映した形で内容を見直すことができた。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・常駐者がいない空き校舎での開設となるため、新しい環境での運営が軌道に乗るまでは、継続した支援を行っていく必要がある。また、スタッフの高齢化が進んでいることから、運営内容を工夫、見直すことで、負担の軽減を図る。
- ・利用者への緊急時の連絡は、登録のあった連絡先に電話で行っていたが、今後は、小学校の一斉メールの仕組みを利用した連絡体制を整備していく。
- ・「児童の放課後の居場所づくりに関する方針」を基に、町・教育委員会、両事業運営団体等が一体的に取り組んでいく必要がある。関係各所の連携を強化するとともに、定期的な協議の場を設け、事業実施状況や課題の把握を行う。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・上記方針は、小学校統合からおおむね5年程度の中期計画として定められており、令和5年度については、その1年目となる。子ども教室の運営を軌道に乗せることと並行し、方針に掲げた児童クラブの運営内容に近い「見守り型」から本来の子ども教室の実施内容である「体験型」への移行に向け、計画的に取り組む必要がある。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑰

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	10	多様な生涯学習機会の提供
	施策	2	現代的な課題への学習機会の提供

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

●協働のまちづくり研修会開催事業

平成30年3月に策定した「遊佐町生涯学習推進計画」を踏まえ、町民参画による持続可能な活力あるまちづくり・地域づくりを進めるための協働による学びを推進しようと、学校・まちづくり関係者が一堂に会して地域づくり研修会を実施するもの。

令和4年度も、令和3年度に引き続きコミュニティスクール推進会議との合同開催として各小中学校運営協議会・各まちづくり協議会に開催案内し、研修会を開催した。

●みんなのセミナー事業 ※次年度以降に延期

主催である遊佐町婦人団体連絡協議会のみんなのセミナー事前協議にて、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、次年度以降に延期とした。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）

●協働のまちづくり研修会開催事業

- ・令和5年2月28日に、「参加・協働でこれからの地域づくりを考える」というテーマの下、「協働のまちづくり研修会（兼）コミュニティスクール推進会議」をコロナ対策により参加人数を各小中学校運営協議会に4名以内、各まちづくりセンターに2～3名以内に限定して案内し開催した。

【意見交換】

テーマ：『協働のまちづくり』を進めるためにできること

参加者人数：36名

●みんなのセミナー事業

- ・次年度以降に延期

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ・関係者を除く参加者から回収したアンケートにより、9割を超える方々が「大変良かった」「良かった」と回答していたので、参加者の満足度が高い研修会となった。
- ・小学校統合を機に「地域とともにある学校」「学校を核とした地域づくり」がさらに充実していくよう各まちづくり協議会と学校、PTAがそれぞれの立場で知恵を出し合い、連携しながら取り組みを進めていくことを確認することができた。
- ・みんなのセミナーは3か年連続で開催見送りとなっているが、次年度においてもコロナ禍だからこそ開催できるセミナーを企画しており、地元で活躍している著名人を講師に迎え、規模縮小して開催する方向で協議している。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・新型コロナウイルス感染症予防として、参加人数を制限して開催してきたが、今後は多くの方が参加できるように参加人数に制限を設けずに開催していきたい。
- ・みんなのセミナーの参加者は、婦人団体連絡協議会（婦団連）の構成団体会員の動員によるものが多く、ほぼ高齢の女性であるため、対象を子育て世代や若者とし、運営についてもそれらの対象を主軸とする団体等へ移行できないかとの意見がある。また、婦団連の構成団体である町婦人団体連絡協議会（町婦連）が、深刻な人材不足により存続が困難な状況で、解散について協議しているとの情報提供があり、婦団連存続自体への影響が懸念される。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・協働のまちづくり研修会はコミュニティスクール推進会議と合同開催としてきたが、企画課と連携し単独での開催で実施していきたい。
- ・町婦連の解散は、婦団連の存続に大きく影響することであるため、セミナーの運営を含め検討していく必要がある。
- ・第3次遊佐町男女共同参画計画～みんなのプラン～の内容に沿い、男女がともに社会参画する意識醸成につながるセミナーのあり方を検討していく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑱

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ 心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	1 1 次世代につなぐ地域活動の推進
	施策	1 地域教育力の向上（学び合い・教え合い）

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

- ゆざオモシロラボ（旧ユースセミナー実行委員会）支援
町内の若者（18～49 歳）から会員を募り、会員同士の交流や主催イベントの企画・運営などを通して幅広い交流を図る。
- 二十歳のつどい実行委員会
二十歳という人生における節目の年齢に開催される、二十歳のつどい記念式典（町主催）への協力と、式典後に実行委員会で主催する交流の場として、「二十歳のつどい交流会」の企画・運営を行う。二十歳のつどいでは進学や就職で地元を離れた同級生同士の交流を図る。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）

- ①ゆざオモシロラボ（旧ユースセミナー実行委員会）支援
 - ・会員数：4 名
 - ・会議・打合せ：3 回
 - ・主な活動
 - (1) 町内小学校の子供たちへのサンタ企画（中止）
- ②二十歳のつどい実行委員会（令和 5 年）
 - ・実行委員：7 名（男：4 名 女：3 名）
 - ・事務局会議：2 回
 - ・実行委員会：3 回

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ①ゆざオモシロラボ（旧ユースセミナー実行委員会）支援
 - ・3 年間実施できていなかった「出張サンタ」を行う予定ではあったが、新型コロナウイルス感染症を考慮し、中止となった。また、ガンプラ塾も発案まではいったが、中止となった。
- ②二十歳のつどい実行委員会（令和 5 年）
 - ・新型コロナウイルスにより二十歳のつどい記念式典のみの開催とし、交流会は中止とした。実行委員会では記念式典に向けての役割の分担、記念品の内容などを協議した。幸いにも式典は開催となり、実行委員が式典記念イベントを大いに盛り上げてくれた。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

⑨ ゆざオモシロラボ（旧ユースセミナー実行委員会）支援

- ・昨年よりも会員が減少している。現存会員も今後退会を考慮している方もおり、新規の会員の獲得が急務である。他市町村の青年団体も同じような状況ということで、相互協力の可能性についても検討していく。

② 二十歳のつどい実行委員会

- ・近隣市町村の状況を考慮し、交流会の開催を検討していく。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

① ゆざオモシロラボ（旧ユースセミナー実行委員会）支援

- ・今後も会員数が減少すると予想される。新規会員獲得のため、YouTubeなどのネット媒体をうまく活用して若い世代に注目してもらえるような活動を展開できるようにする。

② 二十歳のつどい実行委員会

- ・遊佐町在住で編成される実行委員なので、二十歳のつどい後も遊佐町の事業に携われる機会を作れるような体制づくりを進めていく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑱

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	1 1	次世代につなぐ地域活動の推進
	施策	2	地域まちづくり活動の活性化（1）

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

●生涯学習まちづくり出前講座事業

町民が興味や関心を持って学習したい内容を、町職員等が地域のまちづくりセンターや集落公民館の要請に応える形で、わかりやすく講話（説明）し、意見の交流を交えながら学習し、地域づくりに生かしていく。

*平日・休日を問わず、午前9時から午後9時までの時間帯で派遣実施できる。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）

実績の年度経過（実施回数）

平成30年度	63回	令和3年度	45回
令和元年度	52回	令和4年度	42回
令和2年度	28回	※コロナの影響で申し込み後中止3回	

※講座名及び令和4年度実績は【参考資料3】のとおり。

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ・with コロナの考え方が広がった矢先、遊佐町の感染者が急増したことから、申し込みを中止する団体もあって開催回数が伸び悩んだ。
- ・ここ数年、健康・防災に関する講座の活用が増えているが、昨年度から更にその傾向が顕著になった。危機管理係の対応が好評を得ている。
- ・今年度は、遊佐中学校での「総合的な学習の時間」で活用していただいた。生徒たちが遊佐町の現状を知り将来の遊佐町を考える課題解決学習で、産業課や地域おこし協力隊の話の参考にしながらか課題設定を行うことができた。これまでに例のない要請だったが、産業課や企画課から丁寧な対応をしていただき、学校からも大変喜ばれた。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・年度の後半に新型コロナウイルスの影響が大きくなった状況から、利用を躊躇している団体がある。密を避ける実施方法を呼びかけて、利用できるように周知したい。
- ・今年度はすべての地区で区長会や老人会代表の会でPRを行った。また、教頭会・教務主任会で時間を設けてもらい説明を行った。説明の内容や方法に改善の余地がある。各まちづくりセンターと連携を取った上で周知をし、利用促進を図りたい。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・出前講座実施後の報告書にある利用者の声からも、必要性や有益性などが伝わってくる。様々な機会をとらえて出前講座の周知を図っていききたい。
- ・小中学校の学習活動で効果的に活用できた講座の様子を積極的に情報提供し、継続して利用を促していきたい。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑳

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ 心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	1 1 次世代につなぐ地域活動の推進
	施策	2 地域まちづくり活動の活性化(2)

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

●ゆざエブリワーズ・カレッジ 2022

多様な生涯学習のニーズを考慮した学習機会の充実を図る。幅広い年代における生きがいと仲間づくりなどを目指し、地域の特性と人材を生かした各種講座を実施する。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）

- ・実施期間：5月18日（水）～12月11日（日）
- ・対象者：町内在住・在勤の方
- ・申込者数：19名
- ・実施講座
 - ①料理講座「まるっとゆざを食べつくそう☆親子クッキング！」
全4回（初回中止）（5月22日、7月24日、10月30日、12月11日）
延べ38名参加
 - ②ちりめん細工講座
全7回（5月18日、5月28日、6月8日、6月25日、7月6日、7月30日、9月16日）
延べ23名参加
 - ③リラクゼーション講座
中止

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ・昨年度も行った料理講座とちりめん細工講座を開催し、受講者を獲得できた。新型コロナウイルスの影響で、料理講座が一度中止になったが、感染症予防対策を講じながら他の講座では開催することができた。
- ・昨年の反省を活かし、料理講座のチラシに個人での参加も可能である旨を表記することで、昨年よりも多くの受講希望者を募ることができた。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・ちりめん細工講座の講師の進め方と受講者の中で違いを感じることもあり、全講座を通して参加できる方が少なくなってしまった。
- ・開催した2講座の他にもリラクゼーション講座を行う予定があったが、応募が無く開催できなかった。一昨年は人気の講座だったので、曜日や時間帯を考慮して実施していくことが求められる。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・コロナ禍であっても学びへの関心の高さが伺えた。学ぶ意欲を持つ受講者のニーズに応えられるよう、工夫しながら実施したい。また、講座内容が充実するよう講師発掘に努めたい。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑳

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	1 2	うるおいに満ちた芸術文化活動の推進
	施策	2	芸術文化作品鑑賞機会の提供

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<ul style="list-style-type: none"> ・第 51 回遊佐町芸術祭開催 町内の芸術文化振興のために、遊佐町芸術文化協会と共催して実行委員会を設立し、委員の意見を取り入れながら開催。 ・講演会や各種鑑賞機会の提供 9月1日（木）三人のヴィルトゥオーソ夢の響演
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）
<ul style="list-style-type: none"> ・第 51 回遊佐町芸術祭（参加団体 14 団体） 決算見込額：400,000 円（補助金） 開幕式：10月9日（日） ステージ部門：10月9日（日）～12月25日（日） 入場者：1,059 名 展示部門：11月13日（日）～11月20日（日） 参観者：427 名 芸術祭閉幕式：12月13日（火） ・三人のヴィルトゥオーソ夢の響演 新型コロナウイルス感染拡大防止対策として全席指定 240 席（内車イス席 4）販売 入場者数：一般 194 名 学生 4 名 合計 198 名
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の芸術祭は、ステージ部門 6 公演、展示部門 5 展示があり、共演を含め 14 団体からの参加があった。新型コロナウイルスの影響を受け公演を自粛していた団体の参加もあり、賑やかなステージ発表となった。 ・9月1日の音楽鑑賞事業では、チケット販売直前に出演者が変更になったことに加え、町内で新型コロナの感染が拡大したためか、チケットの売り上げが伸びず完売には至らなかったが、当日は 198 名の入場があり、アンケート結果は、おおむね好評であった。
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ前の活動に戻ったとまではいえないが、徐々に活気を取り戻しつつあるように感じられる。芸術祭は、芸術文化活動を行う団体・個人にとって貴重な活動成果を発表する場となっているため、今後も継続していく必要がある。 ・生涯学習センターホールについては、空調設備による換気能力が法の基準を十分に満たしていないため、ホールの定員を 50%以下で運用していることから、設備改修の強い要望がある。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・来年度の芸術祭開催に向け、日程調整が始まっている。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から芸術祭に向け開催していた交流会を中止していたが、各団体・個人の親睦を深め、互いの士気を高め合う意味でも交流の機会を設けたい。
- ・ホールの換気設備については、ホールが老朽化しているため改修は適さないとの調査結果報告を受けている。生涯学習センター自体、築 50 年を経過しており、建て替えを視野にいたした検討が必要である。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】②

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	13	文化財等の調査・保存と継承・活用
	施策	1	文化財の調査・保存の推進

作成：文化係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）	
<p>文化財等の調査を進め、文化財指定などによる保護の措置をとるとともに、未来へ伝えていくための啓発事業を実施する。</p> <p>平成31年3月に遊佐町指定文化財補助金交付要綱を制定し、修復や管理に要する経費に対する補助について、令和元年度から実施している。</p>	
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・目標値 <ul style="list-style-type: none"> ○文化財指定・指定解除・登録等：1件 ○文化財報告書等の刊行：1件 ○遊佐町指定文化財補助金交付：1件 ・実績 <ul style="list-style-type: none"> ○文化財指定・指定解除・登録等：なし ○文化財報告書等の刊行：1件 <li style="padding-left: 40px;">「未来に伝える山形の宝」船絵馬調査報告書 ○遊佐町指定文化財補助金交付：1件 	
○成果（特徴的な事項や良かった点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財指定、指定解除等について審議する文化財保護審議会は、令和3年度と同様に開催は1回のみとなった。開催した審議会では、史跡神矢田遺跡（町指定）と県営圃場整備事業に係る現状変更届が町教育委員会に提出されたことを受け、町指定史跡の現状変更に関して協議した。説明員として事業主体である県の担当者が審議会に出席し、予定している事業内容や史跡の保護について説明した。質疑応答を経て、現状変更の許可について異論なしとする審議会の意見を踏まえ、町教育委員会として事業主体に対し現状変更を許可した。 併せて、史跡鳥海山と遊佐象潟道路（日本海沿岸東北自動車道）整備の進捗状況と史跡小山崎遺跡の整備に関する情報提供を行った。文化財を巡る現状を認識していただけるように、この2点については、審議会委員に随時情報を提供することを今後も継続する。 ・令和2年度から3ヵ年かけて実施した「未来に伝える山形の宝」（山形県補助事業）船絵馬調査内容について、報告書としてまとめた。 ・遊佐町指定文化財補助金は、1件申請があり、交付した。 	
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・未指定文化財の発掘や指定、また、保存と活用など、本来の目的の遂行のために、従来どおり、文化財保護審議会を年2～3回開催していく。 	

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・平成 30 年の文化財保護法の改正を受け、文化財の確実な保存の推進と効果的な活用の促進等を基本方針とする山形県文化財保存活用大綱が令和 4 年 3 月に制定された。これらのことから、町指定文化財の保存と活用を進めていくにあたって、指定文化財の現状を把握するための実態調査の実施に向けて検討していく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑳

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	13	文化財等の調査・保存と継承・活用
	施策	2	民俗芸能・民俗行事の保存と継承・活用

作成：文化係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<ul style="list-style-type: none"> ・第61回遊佐町民俗芸能公演会は、観客数上限を設ける等新型コロナウイルス感染予防対策を講じつつ3年ぶりに開催した。 ・杉沢比山、遊佐の小正月行事（アマハゲ）については、規模を縮小するなどしながら実施された。
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）
<ul style="list-style-type: none"> ・第61回遊佐町民俗芸能公演会 出演団体 5団体（町内4団体 招待1団体） 観客数 32人（観客数上限設定150人） ・補助金の交付 4団体への育成補助金：計192,000円 民俗芸能保存協議会への補助金：100,000円 ・遊佐町公式チャンネルにおける「令和3年度遊佐町民俗芸能公演会 inYouTube」（令和4年1月14日公開）の継続 ・杉沢比山は、本来は現地公演を3回実施するところ、8/15本舞1回のみ実施された。また、遊佐の小正月行事（アマハゲ）は、集落内の巡行は従来通り実施された一方で、各家庭での行事は、感染拡大防止に配慮して一部簡略化して実施された。
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・民俗芸能公演会は民俗芸能の魅力を発信できる場であり、その公演会が3年ぶりに開催できたことは団体の活動意欲の向上にもつながったものと思われる。
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症予防対策として、従来の入場方式から事前申込制へ変更し、町広報へのチラシ折込等にて周知した。3年ぶりの公演会開催の周知、そして、これまでと異なる入場方式への戸惑いが観客数に影響しているのではないかと推測される。変更が伴う場合は、早めに、また、わかりやすい周知に努めていく。 ・民俗芸能・民俗行事は、担い手不足と高齢化による保存、継承が大きな課題となっている。課題への取り組みについては、各団体の考えを尊重し、支援していく。
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<ul style="list-style-type: none"> ・各団体の演舞を間近で見ることができる民俗芸能公演会の開催及び幅広い世代への情報発信を意識し、YouTubeを今後も活用していく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑭

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	14	歴史・文化遺産の保存と継承・活用
	施策	1	歴史資料や文化遺産の調査・保存と継承

作成：文化係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<ul style="list-style-type: none"> ・事業名：ゆざ学講座・講演会等の開催 ・事業内容：私たちの住む「ゆざ」を様々な角度から学ぶことにより、そこで培われた資質・知識などを吸収し、地域の活性化に役立てていくことを狙いとし、講義と現地講座、展示等を組み合わせ実施する。
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）
<ul style="list-style-type: none"> ・目標値：1 講座当たりの参加者数：20 人 ・実績：ゆざ学講座開催（1 回） 45 人 ・事業費：講師謝礼 45,000 円 講師旅費 37,280 円 会場借上料 他 84,974 円 計 167,254 円
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<p>ゆざ学講座 3/5（日）北目菅原家文書から見えてきたこと</p> <p>「菅原家文書の多彩な魅力と楽しみ方」佐藤 正三郎氏（米沢市上杉博物館）</p> <p>「北目菅原家文書の境塚絵図の実体」植松 暁彦氏（山形県埋蔵文化財センター）</p> <p>「北目組の象潟地震被害」保科 文俊氏（寒河江市教育委員会）</p> <p>中世からの在地実力者で「おやかたさま」と呼ばれてきた北目菅原家に所蔵されている2,000 点を超える史料について、平成 24 年から開始した調査内容を「北目菅原家文書目録・調査報告書」にまとめ、昨年度に発刊した。その史料調査を実施した調査会メンバーの中の3名を講師に迎え、講座を開催した。</p>
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と今年度のゆざ学講座は1 回のみの開催となった。次年度以降は、従来どおり年 2 回の開催としたい。 ・また、今年度末に下巻が発刊され、通史として完成した遊佐町史を活用した講座の開催も検討していく。
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<ul style="list-style-type: none"> ・遊佐町は、文化財の宝庫であり（国指定文化財 7 件、県指定文化財 10 件など）、様々なテーマでの講座が可能である。実際の調査や研究と連動した講座をこれからも企画していきたい。 ・また、以前のように座学と現地講座の組み合わせの開催も検討していく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】 ㊸

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	14	歴史・文化遺産の保存と継承・活用
	施策	2	歴史・文化遺産の活用

作成：文化係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<ul style="list-style-type: none"> ・旧青山本邸の一般公開と活用 ・歴史的建造物等を活用した文化伝承行事や交流イベントの実施
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）
<ul style="list-style-type: none"> ・目標値：一日当たりの入館者数 20 人（入館者数÷開館日数） 実績：9 人で目標を達成できなかった。（入館者数 2,922 人÷開館日数 308 日） ・旧青山本邸管理事業費 7,891,636 円 ・保存整備事業費 0 円 ・旧青山本邸の入館料収入 1,091,200 円 ・杉沢文化交流施設（語りべの館・杉沢比山伝承館）の管理運営費 10,873,683 円
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<p>○旧青山本邸</p> <p>企画展①「遊佐の古典文化～吉田清若人形芝居・船絵馬～」 （令和 3 年 11 月 30 日～令和 4 年 4 月 17 日）</p> <p>鳥海山麓の猿倉人形の流れを汲む吉田清若人形芝居、山形県補助事業「未来に伝える山形の宝」を活用して保存調査や修復作業を実施した船玉神社（服部興野）に奉納されている船絵馬を展示、紹介した。</p> <p>企画展②「藩政下の遊佐」（令和 4 年 4 月 29 日～令和 4 年 12 月 28 日）</p> <p>※酒井家庄内入部 400 年記念協賛事業</p> <p>○語りべの館を活用したイベント</p> <p>新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、令和 3 年度と同様にイベントは実施していない。</p>
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の取扱が変更され、人々の行動範囲が広がっていく中で、旧青山本邸については、企画展の開催の継続などにより入館者数増を図っていく。 また、これまで施設の名称にちなみ「語り」を中心としたイベントを語りべの館で実施してきたが、今後この施設を活用した事業の実施についても検討していく。
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<ul style="list-style-type: none"> ・山形県事業「未来に伝える山形の宝」による「海とともに生きた人々の祈り～遊佐町浜通りの漁業・海運に関する歴史文化財～」に係る旧青山本邸を核とした関連文化財の保存と活用に向けた取り組みを引き続き実施していく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】㊾

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ 心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	15 はつらつとした生涯スポーツ活動の推進
	施策	2 関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援（1）

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

●スポーツクラブ等の支援事業

スポーツ基本法に定める総合型地域スポーツクラブの活動を資金面・運営面で支援し、町民がスポーツに親しむ環境を提供することで、町民の健康促進とクラブ活動を通じた地域活性化を図る。町ではイベントの共催・支援、クラブ自立に向けた支援を行い健康福祉課、教育課と連携して、体成分測定会を実施し町民の健康意識及び運動習慣の普及啓発と継続を推進する。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）

【遊佐町総合型地域スポーツクラブ支援事業補助金】

決算見込額 2,403,578 円（予算額 2,406,000 円）

（R3 決算額 2,261,105 円）

【共催事業】

- ・ 8月11日（木・祝） はじめてのキャンプ
 内 容 テント設営・モルック・BBQ
 会 場 高瀬小学校グラウンド
 参加者 33名
- ・ 10月23日（日） エアバレー交流大会
 内 容 エアバレー
 会 場 遊佐町民体育館
 参加者 24名
- ・ 11月23日（水・祝） スラックライン体験会
 内 容 スラックライン
 会 場 遊佐町民体育館
 参加者 30名
- ・ 2月 冬季スポーツイベント・・・中止

【体成分測定会】

町民の健康意識及び運動習慣の普及啓発と継続のため、筋肉量と脂肪量等を測定する「体成分測定会」を月1回実施。

- ・ 実施回数 12回
- ・ 測定者数 延べ57名

【クラブ運営に係わる助言・指導】

クラブ諸会議への参加、クラブマネジャーとの打ち合わせ。

- ・総会 1回 ・理事会 8回
- ・マネジャーとの打ち合わせ 必要に応じて随時

【会員数】

144名 (R3 142名)

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ・昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響もあったが、会員数は昨年度と比較し2名増となった。新しいイベントを開催するなど町民に興味を持ってもらえたことと、感染症予防対策を講じて教室・イベントを開催することにより会員を維持できた結果と考えられる。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・体成分測定の参加者が昨年と比べ減少している。体成分を測定し、自分の健康状態を確認する良い機会のため、多くの町民に利用していただくために周知を行うとともに、現在の15歳以上という対象年齢を検討する必要がある。
- ・法人格取得に向けた研修を開催する。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・新たな受託事業を模索し、クラブ独立のために支援していく。
- ・今後もクラブ運営等の支援をしていき、町民がスポーツに親しむ環境づくりの提供を共に進めていく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】㉓

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ 心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	15 はつらつとした生涯スポーツ活動の推進
	施策	2 関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援（2）

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

- 遊佐町スポーツ協会への社会体育施設指定管理委託及び補助金交付によるスポーツ振興
遊佐町スポーツ協会への本町社会体育施設（町民体育館、サン・スポーツランド遊佐、農業者トレーニングセンター、スポーツ広場）の指定管理委託及びスポーツ振興事業補助金交付により、施設管理の効率化と、スポーツ協会との連携による施設利用の促進を図り、生涯スポーツ・競技スポーツの振興を進める。
- 大会等で優秀な成績を収めた者や、本町のスポーツ振興に寄与した者を表彰する。
- スポーツ推進委員協議会との連携によりニュースポーツの普及促進を図る。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）

【指定管理委託料・スポーツ振興事業補助金】

遊佐町体育施設指定管理委託料 決算見込額 21,055,000 円（予算額同額）
 スポーツ振興事業補助金 決算見込額 700,000 円（予算額同額）

【スポーツ行事の広報】

スポーツニュース（町内スポーツ行事年間行事予定表等） 4月15日全戸配布

【利用実績】

町民体育館、サン・スポーツランド遊佐、農業者トレーニングセンター、町民スポーツ広場、菅里体育館・広場の延べ利用団体数及び延べ利用者数

R4 延べ利用団体数 計 2,164 団体（R3 2,398 団体）

R4 延べ利用者数 計 38,582 人（R3 51,364 人）

※菅里体育館・広場は、指定管理施設ではなく、町が直接管理。町全体の体育施設の利用実績の把握のため、上記数値に含めています。

※各施設の詳細な利用実績については、【参考資料3】「令和4年度 社会体育施設・学校施設・公園施設利用実績」参照。

【表彰関係】

- ・東北地区スポーツ推進協議会表彰 本間 佳津恵
- ・遊佐町体育活動優秀者表彰 55名
（遊佐町スポーツ協会）

【町主催共催事業】

- ・素敵なスポーツクラブ（スポーツ推進委員協議会）

パークゴルフ（5日間） モルック（1日） 累計36名参加

- ・酒田遊佐スポーツ少年団交流大会（スポーツ少年団） 2月18日 2名参加

【新型コロナウイルスにより中止事業（町主催共催事業他）】

- ・鳥海ブルーライン登山マラソン大会（遊佐町スポーツ協会）

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ・社会体育施設指定管理者の遊佐町スポーツ協会と体育施設連絡調整会議や随時打ち合わせを行い、施設修繕箇所を検討し、情報共有を行った。その結果、体育館アリーナの照明LED・天井改修工事や体育館玄関屋根の補修、スポーツ広場の防球ネットの補修等の施設整備の改善につながった。
- ・感染症予防対策を講じることにより、昨年まで中止となっていたスポーツ推進委員協議会のイベントを再開できた。今年は全国的にも盛り上がりがある「モルック」の道具を整備し、町民の方へニュースポーツを体験できるイベントを開催できた。
- ・手指消毒やマスク着用の周知等、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じ、施設利用に起因する感染者を出さなかった。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・町の体育施設が建築より40年以上経過しており、老朽化等により突発的な修繕等が発生する可能性がある。
- ・スポーツ推進委員協議会主催の「素敵なスポーツクラブ」イベントを再開したが、参加人数が伸びなかったため、周知について検討する必要がある。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・今後も連絡調整会議等を開催して、施設を利用するうえでの利便性の向上を図っていく。
- ・体育施設の老朽化等による修繕・工事は、緊急度合いを考慮しながら計画的に行っていく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】㊸

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ 心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	15 はつらつとした生涯スポーツ活動の推進
	施策	4 施設・設備の整備と活用

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）													
<p>●冬季レクリエーション施設運営事業</p> <p>町民がスキーやそり遊びなどの冬季スポーツを楽しみ、健康の維持増進を図れる場を提供するため、鳥海スキークラブの協力のもと、1月～3月の冬期間、三ノ俣に冬季レクリエーション施設を開設している。</p>													
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）													
<p>・開設期間</p> <p>令和5年1月5日から令和5年3月12日まで、毎週火・木・土・日曜日及び祝日</p> <p>開設時間：火・木曜日 午後3時～午後7時30分</p> <p>土・日曜日及び祝日 午前10時～午後4時</p> <p>令和4年度開設日数 40日</p> <p>・施設利用者数</p> <table border="0"> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1,688人</td> <td>(火・木 464人、</td> <td>土・日・祝日 1,224人)</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>2,123人</td> <td>(火・木 548人、</td> <td>土・日・祝日 1,575人)</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>1,675人</td> <td>(火・木 476人、</td> <td>土・日・祝日 1,199人)</td> </tr> </table>		令和2年度	1,688人	(火・木 464人、	土・日・祝日 1,224人)	令和3年度	2,123人	(火・木 548人、	土・日・祝日 1,575人)	令和4年度	1,675人	(火・木 476人、	土・日・祝日 1,199人)
令和2年度	1,688人	(火・木 464人、	土・日・祝日 1,224人)										
令和3年度	2,123人	(火・木 548人、	土・日・祝日 1,575人)										
令和4年度	1,675人	(火・木 476人、	土・日・祝日 1,199人)										
○成果（特徴的な事項や良かった点など）													
<p>・1月の中旬に高温や降雨により雪どけもあったがほとんどの日に開設することができた。</p>													
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）													
<p>・アンバーリフトと圧雪車の経年劣化が激しく、修繕に要する費用が拡大している。今後、さらに拡大していく恐れがある</p>													
○今後の方向性（内部評価的な判断）													
<p>・安全な施設運営を図っていくため、施設運営協力者である鳥海スキークラブとの連携を強化することに努めていきたい。</p> <p>・町内において、冬季間に唯一屋外でスキー等のスポーツができる施設である。今後も施設の修繕を行いながら、開設を行っていく。</p>													

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑳

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ 心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	15 はつらつとした生涯スポーツ活動の推進
	施策	5 生涯スポーツの推進

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<p>●第 29 回奥の細道鳥海ツーデーマーチ</p> <p>東北唯一の日本マーチングリーグ加盟のウォーキング大会として、9月上旬に2日間で開催されるが、新型コロナウイルスによりツーデーマーチの開催は見送り、規模を縮小した奥の細道鳥海ワンデーマーチ 2022 を9月4日（日）に開催することとした。</p>
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算見込額など）
<p>【参加申込者】 1,255 名</p> <p>【参加者数】 906 名</p> <p>・予算 町負担金 3,200,000 円（実行委員会負担金） 決算見込額 1,809,410 円</p> <p>・大会運営予算額 4,300,000 円 決算額 3,011,072 円（内 TOTO 助成金 822,000 円）</p>
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の制限をせず、また JML 等の認定コースを設定したため、県外からの申込が多かった。 ・大会前に新型コロナウイルスが県内でも再流行し、大会直前で参加取り消しする団体等が多かったが、町内、酒田市内の学校から学年行事として参加する方が多く、多くの家族連れで賑わう大会となった。 ・午前中で終了するコースを設けたことで、従事者やボランティアの負担軽減を図ることが出来た。 ・ゴール地点で遊佐高校生が作成したしおり等を配布し好評だった。
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・他の大会では通常ベースの大会規模で実施している大会もあるため、令和5年度はコロナ禍前の大会内容で実施を検討していく。通常大会から数年期間が空いているため、これまで協力いただいた団体でも会員等が変更になり、業務内容が分からないことが想定される。これまでの協力団体には、訪問等を行い協力依頼していきたい。
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に29回大会を開催し、令和6年度には遊佐町合併70周年と第30回の記念大会を開催できるように、準備を進めていきたい。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑩

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	◎ 新型コロナウイルスへの臨時措置
	基本施策	◎ 新型コロナウイルスへの臨時措置
	施策	◎ 新型コロナウイルス感染症予防対策等に係る取組状況

作成：学校指導係

○中止・縮小になった主な行事等
<p>①中止 町水泳競技会／町陸上競技大会／地区住民運動会／</p> <p>②縮小等 運動会は縮小して実施／自然教室は期間の短縮や日帰りでの実施／ 学習発表会は縮小または分散／輝雄祭は平日開催／入学式／卒業式／</p>
○学校における感染症予防対策
<ul style="list-style-type: none"> ・陽性者及び濃厚接触者が複数名出た場合、国や県の通知に照らし合わせながら、その都度、校医・教育委員会・学校で連携を図りながら対応を検討した。 ・日常的には、手洗いや咳エチケット、換気といった基本的な感染症予防対策に加え、各校では、新しい生活様式を実践するための様々な工夫を行いながら対応している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で長期欠席を余儀なくされた児童生徒には、タブレット型PCを活用して学習内容を共有したり、友達とのつながりを持てるようにしたりと工夫を行いながら対応している。
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・次々と町の感染状況や国や県の対応方法が変化していくことに合わせて、臨機応変に対応することができた。 ・関係各所と連携を図りながら、感染症予防対策の徹底を図りながら可能な限り実施していく方策を検討することができた。
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降、新型コロナウイルス感染症の感染上の分類が引き下げられる予定であるため、様々な活動がコロナ前に戻っていくが、これをきっかけに本当に必要なものは何かを見極め、会議の削減等、負担軽減できるところは進めていく。
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年5月8日の分類引き下げに合わせ、これまで各校へ依頼していた報告の方法や様式等の見直しを図る。 ・コロナ禍で削減されていた様々な会議の開催方法や回数等の見直しを図っていく。

